

科目名	教職概論	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標

授業目的: 教職について理論、歴史、実践など複数の観点から学ぶことを通して、カリキュラムポリシーにある「複眼的、俯瞰的なものの見方を培う」ことを目的とする。

到達目標: 教職について多角的な視点から説明することができる。

授業概要

教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史の変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。

準備学修(予習・復習)・受講上の注意

予習: 授業テーマやサブテーマについて下調べした上で、自分自身の考えをまとめておく(2 時間)

復習: ノートをしっかり整理し、わからない用語は調べておく。授業で身につけた知識に基づき、自分自身の被教育体験を相対化してみる(2 時間)

受講上の注意: 毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
期末レポート	55
平常点: 毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度(私語、遅刻、学生証忘れ)等。	45

教科書

教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード: 教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師①「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード: 学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード: モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード: バーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④ チーム学校 キーワード: 校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード: 聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード: 師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード: 戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード: 服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード: 学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード: 体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード: 若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード: 資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師
14	教師の資質と能力②—制度改革からみえるもの キーワード: 資質能力の刷新、免許更新制度、指導力不足教員問題
15	教師の資質と能力③—評価の時代の教師たち キーワード: 教員評価、教師の質の向上問題、授業評価、教職の自律性

科目名	教育心理学	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	山口 恵				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教育心理学とは、乳児期から青年期にかけての人間のこころの発達と教育との関係に着目した学びである。教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から考察する。教育心理学に関する基本的な知識の習得や、用語を理解し、教育現場にでた際には、その知見を応用できることを目標とする。					
授業概要					
基本的には講義形式であるが、教育心理学をより深く学ぶために、ワークショップや映像なども、積極的に取り入れていく。講義内容やその進度は、受講生の理解度や姿勢に応じて変更することがある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前に講義資料を配信することがある。教科書と合わせて目を通すこと。授業中はノートを取り、授業後には適宜、内容を見直すことが好ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
主体的な授業参加、授業感想レポート			30		
試験			70		
教科書					
教科書1	よくわかる教育心理学 第2版				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	中澤潤 編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
臨床心理士、公認心理師である教員が、スクールカウンセラー等の経験を活かし講義することで、教育分野においてその知見を応用できる人材の育成を目指す。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育心理学とはなにかオリエンテーション
2	発達について① 発達とはなにか、主に乳児期～青年期までの発達について学ぶ
3	発達について② 基本的な発達課題について学ぶ ピアジェ、エリクソン、フロイト等
4	学習について① 記憶の種類や仕組みについて 基本的な学習理論について学ぶ
5	学習について② 学習指導と学習評価について 動機づけについて学ぶ
6	知能について 知能および知能検査、IQ の表示法について学ぶ
7	特別支援教育について 特別支援教育の実際について学ぶ
8	こどもの精神疾患について こどもによくみられる心身症をはじめとする精神疾患について学ぶ
9	学級集団について 学校における基本的集団である学級について学ぶ
10	適応への支援と理解① 虐待やヤングケアラー、こどもの貧困等について学ぶ
11	適応への支援と理解② 不登校について学ぶ
12	教師の役割について 学校における教師の役割について学ぶ
13	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとチーム学校について学ぶ
14	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとカウンセリングマインドについて学ぶ
15	総まとめと試験 授業の振り返りと試験

科目名	教育社会学	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業では、本学のディプロマポリシーにある「社会創造・貢献への意欲・能力」を獲得した教員を目指すために必要となる広い視野と科学的な思考能力を身につけることを目的とする。到達目標は以下の通り。「教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革」、これらの教育事象について社会とのかかわりから説明することができる					
授業概要					
「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきた。人々は聖なる教育に対し大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、そのありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で何が「問題」でないのかを考察していきたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習: 授業テーマやサブテーマについて下調べした上で、自分自身の考えをまとめておく(2 時間) 復習: ノートをしっかり整理する。とりわけ、第 4 回、7 回、10 回、14 回に配布されたまとめプリントについてわからない用語は調べておく(2 時間) 受講上の注意: 毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数、授業態度(私語、遅刻、学生証忘れ)等			45		
期末試験(授業内試験)			55		
教科書					
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	教育社会学とは何か キーワード: 教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会		
2	教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態 キーワード: 格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性		
3	教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差 キーワード: 保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等		
4	教育格差と社会—格差の縮小を目指して キーワード: ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校		
5	ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム キーワード: ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科		
6	ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム キーワード: 男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択		
7	ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 キーワード: 「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育		
8	子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか キーワード: 地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化		
9	子ども・若者「問題」と社会—若者の社会化と逸脱 キーワード: 社会化、エージェント、反社会的行動、非社会的行動、ボンド理論		
10	子ども・若者「問題」と社会—若者文化と学校 キーワード: 絶対的価値規範の衰退、コミュニケーション能力、スクールカースト、友人関係		
11	教育改革と社会—臨時教育審議会答申が提起するもの キーワード: 教育の公共性、画一主義教育への批判、臨時教育審議会、個性重視の原則		
12	教育改革と社会—新自由主義に基づく教育改革 キーワード: 新自由主義、公的サービスの民営化、公教育自由化論、学校の個性化		
13	教育改革と社会—社会に開かれた学校を目指して キーワード: 学校の個性化、地域の教育力、学校運営協議会、学校・地域の連携と協働		
14	教育改革と社会—子どもの安全・安心を保障するために キーワード: 安全確保、危機管理、学校保健安全法、学校事故対応に関する指針		
15	今期のまとめ(30分)+授業内試験(60分)		

科目名	人権教育論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的 この授業を通してディプロマポリシーにある国際的視野にたち、実用的合理性をあわせ持った教員をめざせる人材を育成することを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え学習する。 2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。 3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。 4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。 					
授業概要					
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を修得する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>予習:30分 毎時に指定された章の予読。 復習:30分 授業資料及びテキストの復習。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ワークシートの提出			50		
試験			50		
教科書					
教科書1	『人権教育への招待 ―ダイバーシティの未来をひらく』 2019年				
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
1)「人権教育のための国連 10 年」行動計画(仮訳) https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/kyoiku/pdfs/k_keikaku3.pdf 2) 国連「人権教育のための世界計画」 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/kyoiku/index.html 3) 人権教育・啓発推進法 文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/siryo/1318152.htm 4) 人権教育・啓発に関する基本計画(第二次) 法務省 https://www.moj.go.jp/JINKEN/JINKEN83/jinken83.html 5) 文部科学省 人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 6) 文部科学省 人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf 7) 令和7年版人権教育・啓発白書 法務省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/jirei/1384040.htm			
特記事項			
フィールドワークや特別講演への参加を奨励。			
教員実務経験			
国際人権実践家及び教育社会学の研究者としての視点から、日本を含む国際社会における人権侵害や教育的課題の歴史、現状、問題解決に向けた取り組みについて授業する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の概要、自己紹介、序章 人権教育とは何か パート1: 人権教育の歴史的背景		
2	序章 人権教育とは何か パート2: 国内人権教育の4側面		
3	序章 人権教育とは何か パート3: 国際的な人権教育確立の動向		
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」		
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」		
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」		
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」		
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」		
9	第2章 人権を学ぶ基礎概念		
10	第3章 同和教育実践の再発見		
11	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり		
12	第5章 人権学習を作る視点と方法		
13	第6章 地域とつながる人権教育		
14	第7章 人権教育の現代的課題		
15	試験 人権教育実践の補足説明		

科目名	教育方法論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>子どもたちが「生きる力」を身につけ、これからの社会に適応していくために必要となる資質や能力を育成するために必要な教育方法や学級経営の技術などに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする</p> <p>到達目標①:教育方法の基礎的な知識・技術を理解すること</p> <p>到達目標②:教育目的に適した教育方法, 指導方法を理解すること</p> <p>到達目標③:子どもたちに必要となる資質や能力育成のために適した教育方法・指導方法を選択できるようになること</p>					
授業概要					
<p>教育方法や指導方法(技術)の基礎的事項, 教育方法の種類や意義について解説を行います。また専門的内容にとどまらず, 子どもの教育について新しい発見があるような身近な内容も扱います。なお講義内容や進度は, 受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>初回の授業で購入する必要がある書籍や受講上の注意などについてご案内します。 必ずご出席ください。どうしても難しい場合は, メールでご連絡ください。 教科書の購入などは, 初回授業での案内を受けたあとにしてください。 なお毎回の授業後, 復習としてノートをまとめておくことをおすすめします。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験			70		
授業内で行う小テスト(必須受験)			30		
教科書					
教科書1	学級経営の心理学				
出版社名	ナカニシヤ出版	著者名	弓削洋子・越 良子(編)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	よくわかる学校教育心理学				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	森 敏昭・青木多寿子・淵上克義		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
公認心理師, 小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクションと導入(授業の進め方, 成績評価方法の説明, 導入課題)
2	授業づくりの基礎(授業という世界, 経験主義の教育と系統主義の教育, 個別化と協同化, 授業を構成する要素, 技術化と芸術化)
3	学習理論と学習指導①(21世紀型学力とはなにか, 自ら学び自ら考える力の育成, 知識活用力の育成, 持続可能な学力の育成)
4	学習理論と学習指導②(家庭・地域に開かれた学習, 個人差に応じた学習指導, 発達段階に応じた学習指導, 共に学び合う力の育成)
5	カリキュラムと教授法①(プログラム学習, 有意味受容学習, 発見学習, 体験学習)
6	カリキュラムと教授法②(総合学習, ディベートによる学習, プロジェクト学習)
7	カリキュラムと教授法③(適性処遇交互作用, 完全習得学習, 互惠的学習, 認知カウンセリング)
8	教育評価(教育評価の歴史, 絶対評価と相対評価, 絶対評価とルーブリック評価, 絶対評価のモデル)
9	学級経営①(子どもの友人関係・仲間集団, 心理的居場所)
10	学級経営②(教師の子ども理解, 学級集団と教師の学級経営, 学級集団と授業, 特別活動と学級経営)
11	子どもたちへの支援①(心理教育的援助サービス, いじめの実態とその対応, 不登校の実態とその対応, 発達障害の実態とその対応)
12	子どもたちへの支援②(認知行動主義のアプローチ, カウンセリングと教育相談, スクールカウンセリングとスクールカウンセラー)
13	子どもたちへの支援③(ピア・サポート, ストレスマネジメント教育, 構成的エンカウンターグループ)
14	学校をめぐる連携と協働(チーム学校, 保護者と教師の連携, 地域と学級・学校の連携)
15	授業内試験とこれまでのまとめ

科目名	国語科指導法 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 中等教育における国語科授業を担当するために必要な基礎的知識、技能を身に付け、学習指導計画を立て模擬授業を行う力を育成する。</p> <p>到達目標: 中学校および高等学校学習指導要領に基づき、国語教育の現状と課題、目標や内容等を理解し、学習指導計画を立てるための基礎的知識が身についている。学習指導計画を立て、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p>					
授業概要					
<p>対面授業前期は、中学校および高等学校の国語教育の意義と役割を理解するとともに、〔思考力・判断力・表現力等〕(「話す・聞く」「書く」「読む」と〔知識及び技能〕の指導法に関して、基本的な事項を学ぶ。また、発問や板書、教材・教具の取扱いなどの授業実践に必要な事項を学ぶ。後期は、特に「読むこと」の学習に焦点を当てて学習指導案の作成や模擬授業を行い、授業を行う際の留意点や、生徒の実態把握を行う観点、授業デザインの手法等を学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・国語便覧等を活用して国語の基礎知識を身につけておくこと。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
模擬授業・課題の内容			50		
レポート			20		
教科書					
教科書1	実践国語科教育法-第4版:「楽しく、力づく」授業の創造				
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「中学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名2	「高等学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名3	「中学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名4	「高等学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	教育出版	著者名			

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{文部科学省,http://www.mext.go.jp/}			
特記事項			
教員実務経験			
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業の経験を活かして、具体的な指導方法を授業する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	はじめに:国語科指導法 I で何を学ぶか		
2	国語科の制度—学習指導要領と教科書		
3	授業構成の要素① 発問と指示		
4	授業構成の要素② 板書・ノート指導・ワークシート		
5	「話すこと・聞くこと」の授業		
6	「書くこと」の授業		
7	「読むこと」の授業①文学的な文章		
8	「読むこと」の授業②説明的な文章		
9	詩歌の授業		
10	古典の授業(「我が国の言語文化に関する事項」)		
11	漢字・語彙の指導		
12	グループ学習をどう生かすか		
13	国語科における評価について学ぶ		
14	指導計画・学習指導案の作成について学ぶ①		
15	指導計画・学習指導案の作成について学ぶ②		
16	実践模擬授業の教材分析		
17	実践模擬授業の指導計画を立てる		
18	実践模擬授業の学習指導案作成(全体案と評価規準)		
19	実践模擬授業の学習指導案作成(本時案)		
20	実践模擬授業と振り返り①(受講生A)		
21	実践模擬授業と振り返り②(受講生B)		
22	実践模擬授業と振り返り③(受講生C)		
23	実践模擬授業と振り返り④(受講生D)		
24	実践模擬授業と振り返り⑤(受講生E)		
25	実践模擬授業と振り返り⑥(受講生F)		
26	実践模擬授業の総括		
27	指導と評価の一体化を目指すために		
28	授業における ICT 活用の基礎		
29	国語教育とメディア・リテラシー		
30	まとめ 国語教育の課題と展望		

科目名	国語科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的:「国語科指導法Ⅰ」で身につけた国語教師としての基礎力をさらに充実させ、国語科指導の実践力を養う。</p> <p>到達目標:様々な教材について教材研究の方法を身につけ、授業計画を立てることができる。一つの教材について多様な指導法を考えることができる。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業においては、主に中学校の教科書を用いて〔思考力・判断力・表現力等(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと)〕、〔知識及び技能〕(「我が国の言語文化に関する事項」)に関する授業法を考え、理解を深める。さらに、現在の教育の動向を知り、新しい時代に対応した指導法(アクティブ・ラーニングを取り入れた授業・ICTを活用した授業など)について学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の初めに小発表を行う。課題は授業で指示する。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
模擬演習・課題の内容			50		
レポート			20		
教科書					
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造				
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「中学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名2	「高等学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	教育出版	著者名			
参考書名3	中学校・高等学校国語科教育法研究				
出版社名	東洋館出版	著者名	田近洵一、鳴島甫編著；塚田泰彦 [ほか]		
参考書名4	「中学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名5	「高等学校学習指導要領」				

出版社名	東山書房	著者名	
参考 URL			
{文部科学省, https://www.mext.go.jp/index.htm }			
特記事項			
教員実務経験			
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業の経験を活かして、具体的な指導方法を授業する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	はじめに: 国語科指導法Ⅱで何を学ぶか		
2	最近の国語科教育の動向について		
3	[思考力・判断力・表現力等](「話すこと・聞くこと」)の指導① 先行事例の研究		
4	[思考力・判断力・表現力等](「話すこと・聞くこと」)の指導② 実践演習とディスカッション		
5	[思考力・判断力・表現力等](「書くこと」)の指導 ① 先行事例の研究		
6	[思考力・判断力・表現力等](「書くこと」)の指導 ② 実践演習とディスカッション		
7	[思考力・判断力・表現力等](「読むこと」)の指導 ① 読解力を育てるには		
8	[思考力・判断力・表現力等](「読むこと」)の指導 ② 実践演習とディスカッション		
9	[知識及び技能](「我が国の言語文化に関する事項」)の指導 ① 先行事例研究		
10	[知識及び技能](「我が国の言語文化に関する事項」)の指導 ② 実践演習とディスカッション		
11	思考力を育てる授業 シンキングツールの活用法		
12	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業① 先行事例研究		
13	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業② 指導法を考える		
14	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業③ 発表演習とディスカッション		
15	ICTを活用するために		

科目名	道徳指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	澤口 雅彦				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。</p> <p>その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。</p>					
授業概要					
<p>「特別の教科 道徳」の必要性及び在り方について、理論的に検討すると共に、それに則した授業展開について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ペーパーテスト			30		
指導案作成			40		
各授業の感想文			30		
ワークシート等の提出物					
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編				
出版社名	文部科学省	著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	道徳教育の方法				
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	堺 正之		
参考書名2	道徳の理論と指導法				
出版社名	図書文化社	著者名	柳沼 良太		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
<p>小学校教諭時は、道徳部会に所属し、長年道徳教育および道徳科授業実践を行ってきた。また、富田林市教育委員会に在任中は、中学校も含めて道徳道徳教育をはじめ教員研修に携わった。さらに、本学においては、教育現場で道徳科の授業方法(考え、議論する道徳)に関わる実践的研究を行っている。このような経験を生かして、本授業においては、道徳教育の重要性を知ることを通して、子どもの見方・道徳科授業の在り方について思考し、実践に向かう意欲を育む。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科授業を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳科の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育の在り方を探る。
2	「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳が持つ課題や新しい道徳科への期待について考える。
3	「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的イメージを持つ。
5	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の授業場面での教師の動き等と指導案の関係について知る。
6	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして生徒が興味を持つだろうと思う教材の開発の可能性を探る。
7	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業の在り方を検討し、簡易版の指導略案を作成する。
9	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導略案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。・教材研究を行う。
11	「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、いろいろな工夫等を行う)。
12	「模擬授業に挑戦しよう。」③ ・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
13	「模擬授業に挑戦しよう。」④

	・各自作成した指導案を活用して授業の在り方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、グループで検討し合う。
14	「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうして、模擬授業を行う。
15	模擬授業を振り返り、授業の在り方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	特別活動指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	加納 明彦				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>特別活動は「なすことによって学ぶ」を基調においた学びです。学校での様々な集団活動を通して、課題の発見や解決を経験する事で、自らが属す集団に貢献したいという意欲・態度とそのためスキルを身につける事を目標にしている。学級活動、生徒会活動、学校行事を通じて「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」をふまえて、育成すべき資質・能力を知って特別活動への実践的な姿勢と企画力をつける事が目標です。</p>					
授業概要					
<p>対面での授業になります。「なすことによって学ぶ」というのが特別活動の特徴です。この授業は、受講者自身の実践を大事にします。同時に、特別活動は、広い分野の教育活動に繋がっています。広い視野で子どもの社会的な自立を支援する姿勢を育てるために。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ別に分かれてワークショップ形式で企画作りや発表などをおこなう。 ・外部からのゲストティーチャーの協力を得て実際の取り組みの課題を深める。 ・タイムリーな教材を入れるのでシラパスの変更することもあります。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加して一緒に考えることが一番大事です。欠席しないこと。 ・特に必要な場合は、事前に読んでおくべき教材を渡します。 ・グループで話し合う機会があります。積極的に参加してください。 ・平常点の中身は、授業ごとの振り返り課題、対話やワークへの参加度を重視します。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点			50		
レポートによる試験			50		
教科書					
教科書1	特にありません。適時プリント配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」				
出版社名	東山書房	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
対面での授業になります。			
教員実務経験			
<p>公立高校の教員として、総合学習・支援教育を中心に教育改革の実践に携わる。支援教育コーディネータ・指導教諭として学内外の教育活動、啓発活動にも従事してきた。また、福祉教育やボランティア活動の実践的研究にもかかわらず、地域交流活動、介護体験等の企画コーディネータも行っている。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	特別活動の指導要領上の位置付けと教育目標を理解する。受講生それぞれの、これまでの学習経験を振り返り、どのような活動が、特別活動であったかを振り返る。特別活動が実際に展開される場が、学級活動・生徒会活動・学校行事であること、ここでの活動が学校全体の教育課程の遂行の中での重要な位置であることを理解させる。(基礎 1)		
2	新学習指導要領改訂による特別活動で育てたい資質・能力の具体について、従来の指導要領の「望ましい集団活動を通して」との教育目標の継承発展の視点で理解する。(基礎 2)		
3	改訂の中心となる考え方である「社会に開かれた教育課程」についてその意義と具体的な内容を理解する。地元の学校で活動している SSW やサポーターの実践例を知り社会に開かれた学校の意義を理解する。(基礎 3)		
4	特別活動の教育理念の基底にある「なすことによって学ぶ」の意味について、体験学習のプロセスの理解や、PDCA サイクルを学ぶことによって、特別活動のカリキュラムを効果的に構成するマネジメントの発想を学ぶ。(基礎 4)		
5	学級活動は、特別活動が展開される拠点である。学級は、生徒にとっては身近な社会生活と言える。学級づくりを通しての人間関係の築き方などを学ぶ。そこで育てた力が実社会に出ても活用できる力に繋がる。支持的風土の醸成された学級づくりに向けた学級活動の課題と目標について理解する。担任として育てておくべき資質態度について考察する。(学級活動 1)		
6	担任として育てておくべき、コミュニケーションスキルについて体験的に学ぶ。現在実践をおこなっている人の事例から、実際の高校現場で展開されている特別活動の内容を体験し、担任としての役割や関わりのあり方を考察する。(学級活動 2)		
7	担任が行う学級活動の“要”が、話し合い活動の指導であることに留意させる。合意形成のワークを受講者が体験することで、クラス全員が参加できる話し合いを作るには何が必要か考える。特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践するアクティブラーニングの手法を知る。(学級活動 3)		
8	いじめが起きない、起こっても解決できる。そんな学級、学校を創り育てることは、社会からの要請である。いじめの問題を人間関係形成の視点から多様に分析し、クラスづくりに活用していく能力資質を育てるために、事例研究を通して、考察する。同時に、制定された「いじめ防止対策推進法」		

	(平成 25 年)の趣旨を学び、虐待などとともに、生徒の立場に立って問題解決に向かう資質態度について学ぶ。(学級活動 4)
9	クラス作りにおいて求められている今日的な課題は、多様性の尊重である。従来の一斉指導的な関わり方ではなく、それぞれの生徒が持っている課題を具体的に知った上で、それを超えて互いを受容し合う関係性の構築が課題となる。この回では、発達障害のある生徒を受け入れるクラス作りの実践を考察することで多様性の受容について考える。(学級活動 5)
10	特別活動と各教科等との双方向の関係について理解する。特に「総合的な学習の時間」との共通点と相違について。特別活動の実施の中での道徳性の滋養を通じた「道徳」との関係、今回の改訂で強調されたキャリア教育との関係について具体的な実践を知り、理解する。(他の教科等との連携)
11	生徒会活動は、異年齢の生徒同士で諸課題の解決に向けて、計画、役割分担、協力して自主的・実践的に協働的にすすめられる特別活動である。その活動の意義について理解する。(生徒会 1)
12	ボランティア活動等の社会参画は、社会に開かれた教育課程を担う実践的教育活動と言える。それ以外にも考えられる地域社会と協働した取り組みの可能性について考察する。(生徒会 2)
13	学校行事は、全校または学年という大きな集団を単位として、生徒が喜びや苦労を分かち合いながら協力する体験的な活動である。大学生に聞くと、今までの学校生活で一番印象に残っているのは文化祭や合唱コンクール体育祭などの学校行事である事が多い。感動によって心を動かす経験が心に残るのである。そのような感動を共有できる学校行事の指導案作りについて考察する。(学校行事 1)
14	今までの学習をふまえて、あなたが考える望ましい学校行事について設定して指導案を作る。 i ,題材と主なねらい ii ,育てたい力 iii ,どのように学ぶかを明確にする事を学ぶ。(学校行事 2)
15	特別活動で学んだ能力態度が以降の人生の中でどのように活かされていくのかについて考察する。よりよい社会作りや他者との協働的な活動の意味について、国民、市民として社会の中で積極的に集団生活を担う事の意味について考察する。(発展)

科目名	教育相談	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>今日学校現場で起こっている様々な問題について、心理学や教育相談の観点から捉える能力を身につけ、多職種と連携してアプローチする視点を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標 1: 教育相談の理論と方法について理解すること</p> <p>到達目標 2: 教師を始めとした対人援助職に求められる臨床的視点を身に付けること</p> <p>到達目標 3: 子どもの発達状況を理解し、それに対してどのような支援を行うことができるかを提案できるようになること</p> <p>到達目標 4: 子どもの保護者の立場や思いについて想像し、どのような支援を行うことができるかを提案できるようになること</p>					
授業概要					
<p>教育相談の理論及び方法について講義形式で解説を行います。加えて、学校を含む様々な場面で出会う子ども及びその保護者の困り感に、どのように対処、支援していく必要があるのかをグループワークやロールプレイを交えながら考えていきます。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>初回の授業までに教科書を購入しておいてください。</p> <p>また初回授業で受講上の注意などをご案内します。</p> <p>必ずご出席ください。どうしても難しい場合は、メールでご連絡ください。</p> <p>またグループワークやロールプレイを行う上で、発達心理学分野や教育心理学分野の知識が必要となる場合がありますので、必要に応じて読んでおくべき文献などを指示します。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験			70		
授業内で取り組む課題			30		
教科書					
教科書1	【新版】教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー				
出版社名	北樹出版	著者名	桜井 美加:齋藤 ユリ・森平 直子		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	生徒指導提要				
出版社名		著者名	文部科学省		
参考書名2	臨床家のための DSM-5 虎の巻				
出版社名	日本評論社	著者名	森 則夫・杉山登志郎・岩田泰秀(編・著)		
参考書名3					

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
公認心理師, 小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義, 演習を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	イントロダクションと導入 (授業の進め方, 成績評価方法の説明, 導入課題), 教育相談とは		
2	学校における連携と協働(チーム学校における教育相談, 学校におけるさまざまな連携)		
3	児童生徒理解のためのアセスメント(児童生徒支援に必要とされるアセスメントの観点, 教師によるアセスメントの特徴, 知能検査を学習指導に活かす)		
4	カウンセリングの基本を学ぶ①(カウンセリングとは何か, カウンセリングにおける人間関係の質, 援助者に求められる基本的な態度)		
5	カウンセリングの基本を学ぶ②(5つの返答の仕方, 理解的返答のための具体的方法)		
6	児童虐待への理解と対応①(虐待の定義と分類, 児童虐待の背景)		
7	児童虐待への理解と対応②(虐待が子どもに及ぼす影響, 愛着障害と発達性トラウマ, 被虐待児への対応)		
8	特別支援教育を必要とする子どもたち①(発達障害の理解と対応, 合理的配慮と特別扱い問題, ADHD(注意欠陥多動症)の理解と対応)		
9	特別支援教育を必要とする子どもたち②(SLD(限局的学習症)の理解と対応)		
10	特別支援教育を必要とする子どもたち③(ASD(自閉スペクトラム症)の理解と対応)		
11	不登校の子どもへの理解と対応①(不登校とは, 不登校の実態, 不登校と発達障害)		
12	不登校の子どもへの理解と対応②(不登校支援(本人を支える, 保護者を支える), 再登校以外の選択肢と学校外の居場所)		
13	いじめの被害者・加害者への理解と対応①(わが国におけるいじめ対策——「いじめ防止対策推進法」とその後の対策, いじめとは何か, いじめの態様)		
14	いじめの被害者・加害者への理解と対応②(見えにくいいじめ, いじめの四層構造, いじめ防止のためにすべきこと, ネット上のいじめ, いじめの被害者・加害者への支援)		
15	これまでのまとめ		

科目名	情報科指導法	年次	3	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	天野 真由美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教育実習での確な指導ができる学習指導案を作り上げることを目標とする。					
授業概要					
高等学校学習指導要領情報編を使って育成する生徒像を想定していかに指導していくのかを学ぶ。指導しやすいプログラミング言語を選びアクティビティーを取り入れた授業の組み立てができるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学習指導案の作成 1			20		
学習指導案の作成 2			20		
学習指導案の作成 3			20		
プレゼンテーション			40		
教科書					
教科書1	実践 情報 1				
出版社名	開隆堂	著者名			
教科書2	Python1 年生				
出版社名	SHOEISHA	著者名	森 巧尚		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	適宜紹介				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

東レ株式会社 ファッション企画部 デザイナー
 ウェブデザイン(フリーランス): 病院関係: 京都府立医科大学循環器内科学教室、京都府立医大精神機能病態学、京都府立医大消化器内科学教室、京都府立医大長寿疫学講座、関西医科大学医学研究科、独立行政法人京都病院、ふじやまクリニック、社会福祉法人・風媒花、中島外科胃腸科、医療法人泰恵会・しばさきクリニック、のだこどもクリニック、新大阪腎疾患カンファレンス、日本酸化ストレス学会、関西医科大学大学院小児科学教室、医療法人日野医院、大阪骨粗鬆症を考える会、小林製薬通販サイト/他
 アパレルブランド: キュリアスジョージ、HISHIM、HangTen、ファミリア、TEHAMA(クリントイーストウッド)/他
 その他のジャンル: 上方落語協会、日本聖公会奈良基督教会、日本聖公会京都教区、奈良友の会、シノワズリーモダン、呉服座/他

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	全国共通入学試験の問題を説いてみる。
2	情報科指導要領で情報の授業の内容確認をする。情報教育について。
3	情報1の基本構造。ポートフォリオを使った授業
4	情報デザインを理解する
5	情報デザインとコミュニケーション
6	画像、動画、画質、情報伝達について
7	情報デザインとアートの違い
8	ピクトグラムを使った実習
9	文字をデジタル化してみよう。
10	音のデジタル化について体験してみる。
11	楽なアルゴリズムを発見しよう。生徒にどう説明するか考える。
12	アルゴリズムとフローチャート
13	プログラミングで使う変数とは何か。
14	前期に学んだ内容で指導案を作成。
15	指導案のプレゼンテーション
16	Python 基礎
17	Python でデータ変換をする
18	Python でより複雑なデータを制作
19	Python で亀を出してみる
20	Python の亀で図形を描く
21	Python で亀に自分の苗字を描かせる
22	Python で亀に名前を描かせる。
23	Python の実習
24	問題の発見、解決に向けてプログラミングを効果的に活用する方法
25	グループ分けの授業の利点
26	学習指導要領に沿って学習指導案を作成
27	学習指導案の作成、チェック、ブラッシュアップ
28	別の指導案の作成
29	学習指導案の作成、チェック、ブラッシュアップ
30	指導案のプレゼンテーション、講評

科目名	教職実践演習(中・高)	年次	4	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子、土屋 尚子				
クラス名	教員免許取得				
授業目的と到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ教育理念の総仕上げとして教育現場において実践的に学ぶ。 ・教育現場での教育活動を通して教員に求められる資質能力を理解する ・実習校での実践を通して教科指導、学級指導、生活指導など指導力向上を目指すとともに教員の仕事のやりがいを体得する 					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究やグループなど演習を中心に授業を行う。 ・教員に求められる資質能力を理解し、その向上を目指す態度を養う。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教員になる上での自己の課題を自覚し、真摯な態度で受講する。 ・教員として専門性を高める意識を持つ。 ・幅広い視野を持ち、指導者としての自覚を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にする。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ワークシート・レポート・提出物等			100		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
元中学校校長がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1 学校現場の教育活動全般について学ぶ意義についてオリエンテーション
2	2～4 事例研究・グループ討論
3	2～4 事例研究・グループ討論
4	2～4 事例研究・グループ討論
5	5 ゲストスピーカーによる講話①
6	6～7 事例研究・グループ討論
7	6～7 事例研究・グループ討論
8	8 教員免許一括申請説明会
9	9～11 事例研究・グループ討論
10	9～11 事例研究・グループ討論
11	9～11 事例研究・グループ討論
12	12 ゲストスピーカーによる講話②
13	13～14 事例研究・グループ討論
14	13～14 事例研究・グループ討論
15	15 教育実習記録を確認しながら振り返りを行う。

科目名	国語科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	選択科目				
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 模擬授業を多く経験することで、国語科指導の実践力を高める。さらに新しい時代に対応した国語教育のあり方について考え、授業実践に生かす。</p> <p>到達目標: 様々な教材について授業計画を立て、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。様々な教材・指導法に関する知見を深めている。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業においては、主に中学校の教科書を用いて[思考力・判断力・表現力等](「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと)および[知識及び技能]のうち「我が国の言語文化に関する事項」に関する模擬授業を多く行う。ディスカッションを通して相互に問題点を発見し、よりよい授業法を考える。さらに、新しい時代に対応した指導法(アクティブ・ラーニングを取り入れた授業・ICTを活用した授業など)を取り入れた授業構成を考える。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の初めに小発表を行う。課題は授業で指示する。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
模擬授業・課題の内容			50		
レポート			20		
教科書					
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造				
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「中学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名2	「高等学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名3	「中学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名4	「高等学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	教育出版	著者名			
参考書名5	中学校・高等学校国語科教育法研究				

出版社名	東洋館出版	著者名	田近洵一, 鳴島甫編著 ; 塚田泰彦 [ほか]
参考 URL			
{文部科学省, https://www.mext.go.jp/index.htm }			
特記事項			
前年度に「国語科指導法Ⅰ」を履修している者を対象とする科目である。			
教員実務経験			
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業の経験を活かして、具体的な指導方法を授業する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	はじめに: 国語科指導法Ⅲで何を学ぶか		
2	実践模擬授業の教材の選定		
3	実践模擬授業のための教材研究		
4	実践模擬授業の指導計画を立てる		
5	実践模擬授業の学習指導案作成(全体案と評価規準)		
6	実践模擬授業の学習指導案作成(本時案)		
7	学生(A)による実践模擬授業(第1回目)とディスカッション		
8	学生(B)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション		
9	学生(C)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション		
10	学生(D)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション		
11	学生(A)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション		
12	学生(B)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション		
13	学生(C)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション		
14	学生(D)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション 実践模擬授業の総括		
15	おわりに: よりよい授業を作るために		

科目名	特別支援教育理論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	家門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。					
授業概要					
[対面授業]特別支援教育種の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障がいや知的障がいや身体障がいの特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業では、障がい名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験					
提出物			60		
授業態度			40		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために」改訂版				
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。養護教育から特別支援教育への移行した意味について資料を基に教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障がいとは何か、障がいがあるとはどういうことかについて、WHO の区分、ICD(国際生活機能分類)から社会モデルについて学習する。
3	障がい児や障がい者が歴史上、どのように暮らしてきたか、社会や文化の中で位置づけられてきたか実例を基に学び、これからの社会について考える。
4	合理的配慮やインクルーシブ教育システムという理念が出てきた背景やそれらの意義について学習する。合理的配慮と基礎的環境整備について具体的な事例等を検討する。
5	障がいの受容について学ぶ、障がい児の保護者や家族について理解する。発達障がいがある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ
6	学校教育法上における障がいについて適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。 1) 視覚障がい・聴覚障がいの特徴の理解と指導・支援、配慮の在り方について学ぶ
7	学校教育法上における障がいについて適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。 2) 知的障がいの理解と指導・支援: 知的障がい児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
8	学校教育法上における障がいについて適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。 2) 肢体不自由の理解と指導支援: 肢体不自由の原因、状態、特徴などを理解し、支援の在り方を理解する。特に教育現場で必要とされる配慮についてどのような合理的配慮を要するか学習する。
9	学医療的ケアや地域の学校で学ぶ教育的ニーズのある児童生徒についての状況を理解、合理的配慮や支援の在り方を学ぶ。
10	「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」について、それらの背景にある考え方や特別支援教育での意義と関係、活用について学ぶ。
11	発達障がいについて 1) 自閉症スペクトラム障がい(ASD)・広汎性発達障がい(PDD)・社会的コミュニケーション障がい(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。を考える。
12	障発達障がいについて 2) 学習障がいの理解と指導・支援:SLD の定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
13	発達障がいについて 3) 注意欠陥多動性障がい(ADHD)の理解と指導・支援 ADHD の三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
14	発達検査や知能検査を用いたアセスメントや日常生活での行動特性から障がい児の発達と支援について理解し、支援の在り方について学習する。さらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。

15	全体総括: 特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改め—して復習し課題に取り組む。
----	---

科目名	教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	吉田 茂孝				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1)学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2)教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3)教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の授業での小レポート・レポート			45		
テスト			55		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)				
出版社名		著者名			
教科書2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)				
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『よくわかる教育課程 第2版』				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編		
参考書名2	『よくわかる教育評価 第3版』				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編		
参考書名3	岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム				
出版社名	岩波書店	著者名	秋田喜代美編		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	学習指導要領の特徴
3	教育課程(カリキュラム)の展開(1)-意図したカリキュラム-
4	教育課程(カリキュラム)の展開(2)-実施/達成したカリキュラム-
5	中間まとめ-教育課程と学習指導要領の関連-
6	教育課程の変遷(1)-経験主義-
7	教育課程の変遷(2)-系統主義-
8	教育課程の変遷(3)-新しい力と学力低下論争-
9	教育課程の変遷(4)-コンピテンシーの育成-
10	中間まとめ-教育課程編成の特徴-
11	教育課程と学力形成-学びからの逃走-
12	教育課程と学力形成-学力低下と学びの質-
13	教育課程と学力形成-PISA とキー・コンピテンシー
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ-教育課程編成の意義と課題-

科目名	教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	北川 剛司				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1)学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2)教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3)教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の授業での小レポート			70		
テスト(レポート試験)			30		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領総則編(平成29年告示)				
出版社名		著者名			
教科書2	高等学校学習指導要領総則編(平成30年告示)				
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『よくわかる教育課程 第2版』				
出版社名	ミネルヴァ書房、2018年	著者名	田中耕治編		
参考書名2	『よくわかる教育評価 第3版』				
出版社名	ミネルヴァ書房、2021年	著者名	田中耕治編		
参考書名3	『岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム』				
出版社名	岩波書店、2017年	著者名	秋田喜代美編		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
次のことに留意すること。3日間の集中講義では、1日(5コマ分)を欠席するとその時点で3分の1の配点が得られないことになるため、単位取得(60点以上をとること)は極めて難しくなります。また、集中講義の場合は理由に関わらず公欠扱いはできません(代替課題等の対応はない)。	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	新学習指導要領の特徴
3	教育課程(カリキュラム)の展開(1)-意図したカリキュラム-
4	教育課程(カリキュラム)の展開(2)-実施/達成したカリキュラム-
5	中間まとめ-教育課程と学習指導要領の関連-
6	教育課程の変遷(1)-経験主義-
7	教育課程の変遷(2)-系統主義-
8	教育課程の変遷(3)-新しい力と学力低下論争-
9	教育課程の変遷(4)-コンピテンシーの育成-
10	中間まとめ-教育課程編成の特徴-
11	教育課程と学力形成-学びからの逃走-
12	教育課程と学力形成-学力低下と学びの質-
13	教育課程と学力形成-PISA とキー・コンピテンシー-
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ-教育課程編成の意義と課題-

科目名	総合的な学習の時間の指導法	年次	4	単位数	1
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
【授業目的】探求的な見方、考え方の育成を目指し、「横断的、総合的な学習」の企画立案および「社会における課題等を考える」指導を行う資質能力の育成。					
【到達目標】「総合的な学習の時間」の意義を理解するとともに具体事例を企画立案することができる					
授業概要					
・課題を探求し、様々な視点から考察、分析を行い探求する学びを深める					
・指導案作成、模擬授業などの実践を通じて学校教育の中で付けるべき力を考える					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
積極的な姿勢でしっかりとしたプレゼンテーションを行う					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
指導案・模擬授業・レポート・提出物等・平常点			100		
教科書					
教科書1	学習指導要領解説—総合的な学習の時間編				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
元中学校校長がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	第1回 学習指導要領の理解を深める。「総合的な学習の時間」の意義を学ぶ
2	第2回 具体的な実践事例をもとに、「総合的な学習の時間」の展開方法を学ぶ
3	第3回 探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習の視点で具体事例を考える
4	第4回 指導事例の企画・立案・作成①
5	第5回 指導事例の企画・立案・作成②
6	第6回 模擬授業の実施①
7	第7回 模擬授業の実施②
8	第8回 模擬授業の反省および「総合的な学習の時間」の総括

科目名	生徒指導と進路指導論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【25以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>情報化が進展する現代社会で発生する児童生徒の問題行動等の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は児童生徒一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導と進路指導論では、教員に求められる基本的資質、子供理解、学習指導、組織の運営参画などの知識や技能を、演習や対話などを通じて習得できるように取り組む。</p>					
授業概要					
<p>「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育で重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。また、問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校においてわかる授業を創ること、自尊感情を育成すること、将来の目的意識を醸成すること等、生徒の将来に向けて実践すべき内容や個別課題の生徒指導のあり方を考える。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということを基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒に学ぶことの意味や学校の教育活動をどのように計画するか、自身の中高生での経験を活かし、教員としての学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導の在り方を考察し研究を進める。配布資料の要点の整理を通じて教員としての指導力を高める。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート 1～6			30		
課題論文 1～5			35		
授業内筆記試験			35		
教科書					
教科書1	生徒指導提要 コンパクト版・関連法令付録				
出版社名	株式会社 ジアース教育新社	著者名	文部科学省・加藤 勝博		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 大阪府立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	生徒指導と進路指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の構成の理解と活用の意義を学ぶ。 第1章 生徒指導の基礎 生徒指導の定義と目的。		
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導体制の確立の意義。 第2章 生徒指導と教育課程。		
3	生徒理解とその方法。生徒理解に対する基礎知識。 第3章 チーム学校による生徒指導体制。不適切な指導。		
4	問題行動に対する生徒指導Ⅰ 第4章 いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導		
5	問題行動に対する生徒指導Ⅱ 第5章 暴力行為 対教師暴力はなぜ起きるのか。		
6	問題行動に対する生徒指導Ⅲ 少年非行、家出、性非行 第6章 少年非行、飲酒・喫煙、薬物乱用。		
7	問題行動に対する生徒指導Ⅳ 第7章 児童虐待、児童虐待の定義。		
8	問題行動に対する生徒指導Ⅴ 命の認識への働きかけ 第8章 自殺、命の教育と自殺防止 TALK の原則		
9	学校教育の最近の事例を考えるⅠ 将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進。 第9章 中途退学 キャリア教育・進路指導の未然防止		
10	学校教育の最近の事例を考えるⅡ 不登校、楽しい学校をどう作るか。 第10章 不登校 教育相談体制の充実。		
11	学校教育の最近の事例を考えるⅢ IT 社会の諸課題 第11章 インターネット・ケータイ問題		
12	学校教育の最近の事例を考えるⅣ 性教育をどのように進めるか。 第12章 性に関する課題 学校の性に関する指導		
13	学校教育の最近の事例を考えるⅤ 特別支援教育を進めるために。特別支援教育への転換点 第13章 多様な背景を持つ生徒への生徒指導。		
14	学校教育の最近の事例から考えるⅥ 全国学力学習状況調査から見る生徒指導。 授業内筆記試験 (60分) 授業の理解度を確認する。		
15	生徒指導力の向上、教師力の向上、学校力の向上 教育相談活動の充実と活性化 生徒との心のふれあいについて考える。・目指す学校像・つくる学級像・育てる生徒像を考える。新しい学校行事の創造。		

科目名	教育実習 I (指導)	年次	4	単位数	1
授業期間	2026 年度 前期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	国語科免許				
授業目的と到達目標					
<p>本授業は学校現場での教育実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、より深め、発展させて教員としての実践力を総合的に高めることを目的とする。</p> <p>[到達目標]・教育実習の意義を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に関する基本的な知識を習得する。 ・学習指導案作成の仕方を習得する。 ・学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。 ・教育実習に臨む意欲を高め、教員としてふさわしい態度を身につける。 					
授業概要					
<p>対面授業事前指導においては、次の2点を行う。</p> <p>1 教育実習の意義と教員が果たす役割、学習指導、生徒指導、学級経営の方法などについて、講義やディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>2 学習指導案の作成や模擬授業を通して実践感覚を養い、自己の課題を明確にする。事後指導においては、全体での振り返り、および個人面談による指導助言を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で授業に臨むこと。 ・実習校、大学との事務的な処理を迅速・確実に行うこと。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実習校の評価			20		
授業への積極的参加度			40		
発表・課題・レポート			40		
教科書					
教科書1	よくわかる教職シリーズ 教育実習安心ハンドブック				
出版社名	学事出版	著者名	小山茂樹 編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業および学級運営、校務などの経験を活かして、模擬授業の実施や実習生として必要な心構えなどについて具体的に指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 教育実習の意義について		
2	2 学校教育を支えるもの		
3	3 生徒理解-現状と課題		
4	4 生徒理解-指導の実際		
5	5 学級経営の意義とその具体		
6	6 教師の資質と役割		
7	7 今日的教育課題と教育改革		
8	8 学力観とその変遷-学力調査とその現状		
9	9 学習指導の進め方		
10	10 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施(第1回)		
11	11 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施(第2回)		
12	12 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施(第3回)		
13	13 学習指導における教師のリーダーシップ		
14	14 教育実習		

科目名	教育実習 I (指導)	年次	4	単位数	1
授業期間	2026 年度 前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	音楽科免許				
授業目的と到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ教育理念の総仕上げとして教育現場において実践的に学ぶ。 ・教育現場での教育活動を通して教員に求められる資質能力を理解する ・実習校での実践を通して教科指導、学級指導、生活指導など指導力向上を目指すとともに教員の仕事のやりがいを体得する 					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を理解し、学習指導案を適切に作成することができる。 ・音楽科教員として、魅力ある楽しい授業作りができる。 ・指導案作成や模擬授業を通して教育実習に臨む力を育成する。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と心構えを理解し、真摯な態度で受講する。 ・音楽科教員として専門性を高める意識を持つ。 ・生徒にとって分かりやすい、楽しい授業作りの視点を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にする。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学習指導案・模擬授業・ワークシート・レポート・教育実習等・平常点			100		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説一音楽編				
出版社名		著者名	文部科学省		
教科書2	中学生の音楽 1/2・3上下 中学生の器楽				
出版社名		著者名	教育芸術社		
教科書3	中学音楽 音楽のおくりもの1/2・3上下 中学器楽				
出版社名		著者名	教育出版		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1、教育実習の心得、学校現場の教育活動全般について学ぶ。		
2	2、「教育実習Ⅰ」の授業方針の理解。教育実習の意義および基本方針の理解。実習校との事務手続き、打合せについての確認。		
3	3、学習指導要領解説音楽編を理解し、音楽科の「意義」と生徒に育むべき「資質能力」を学ぶ。		
4	4、学習指導計画(指導事項・題材設定・共通事項・授業展開)の理解。		
5	5、表現(歌唱・器楽・創作)、鑑賞における授業構成について学ぶ。		
6	6、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する(1)		
7	7、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する(2)		
8	8、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する(3)		
9	9、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(1)		
10	10、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(2)		
11	11、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(3)		
12	12、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(4)		
13	13、指導と評価について学ぶ(目標に準拠した評価・観点別評価)		
14	14、学校の日、教育活動全般について学ぶ(教科指導・学級活動・生活指導・道徳)教員の服務規律および職務上の義務について学ぶ。		
15	15、実習記録の記載法についての理解。		

科目名	教育実習 I (指導)	年次	4	単位数	1
授業期間	2026 年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明、本田 妙子				
クラス名	美術科・工芸科免許				
授業目的と到達目標					
世界のグローバル化により既存の価値観が揺り動かされ、教育も変革の波にさらされている。現代の教育改革の時代に教員をめざして学んできた教職課程履修の仕上げとして一般教養、教職専門、各教科のすべての内容をより深く理解するとともに、実習校での実践を通じて教科指導、生徒指導、学級指導などの指導力の向上を図る。また、教師としての熱い情熱の育成と、質の高い授業が創造できる人間力の獲得をめざす。					
授業概要					
実習校での生徒や教職員との人間関係を円滑に構築するため、挨拶や声掛けなどのコミュニケーション力の向上と社会性の育成に努める。教員に求められる指導力を学び、教職に対する意欲の向上と目標の具体化を図る。美術科学習指導案に基づき、具体的な授業が展開できるよう、生徒への話し方、導入・展開の発問、板書の仕方、参考作品の提示など生徒を引き付ける要点について学ぶ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
学習指導要領の理解(1H)指導計画の作成と内容の取扱い(1H)挨拶の練習(1H)学級活動での話題(1H)等教育実習で学ぶという意義と心構えをよく理解し、真摯な態度で参加すること。授業の目標を明確にし、わかりやすい授業を創造できるように授業計画を立案する。挨拶の大切さと生徒に積極的に声掛けを行うなどコミュニケーション力を高めるよう努力する。実習中の活動は実習ノートに記録し、成果と課題を整理する習慣を身につける。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術科学習指導案(わかりやすい学習指導案の作成)			10%		
レポート1~3(挨拶、励ましの言葉、お礼状、教育実習を終えて)			40%		
模擬授業評価点(模擬授業の評価シートの活用)			10%		
美術教育鑑賞テスト(事後指導の⑭⑮に行います)			20%		
教育実習の成績			20%		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編				
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	美術資料				
出版社名	株式会社秀学社	著者名	京都市立大学美術教育研究会		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教務部 教職員課管理主事 大阪市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1. 教育実習生の心得を学ぶ。教育実習の法的根拠 教育実習の目的 教育実習の流れ サービスの根本基準 守秘義務 教育実習中の心構え 中学校・高等学校の教育活動の現状について理解する。		
2	2. 教育実習 I のシラバスと授業方針を知る。教育実習の意義と基本的態度を理解する。実習校との打ち合わせと教育指導の計画について理解する。		
3	3. 学習指導要領解説美術編の教科の目標を理解し、学習指導案の 作成の基礎・基本をもう一度確認する。 中学校・高等学校の学習指導要領の目標及び内容、学年の目標及び内容を理解し指導案を作る。		
4	4. 美術科学習指導案をもとに模擬授業1を行う。表現・鑑賞の領域、視聴覚機器の活用班に分けて円滑に行う。 教育実習で活用できる「美術科学習指導案」を作成する。他者の授業も実習での参考にできるようにする。		
5	5. 模擬授業2を行う。挨拶や板書、参考作品の提示、発問の仕方、道具の使い方等の授業の指導要点を理解する。 パワーポイントの活用など、分かりやすい導入の工夫をする。		
6	6. 模擬授業3を行う。片付けの指示、制作態度の評価、自己評価カードの作成と活用に留意する。スマートフォンの活用など、スクリーンへの映像の拡大などの工夫を行う。		
7	7. 模擬授業4を行う。生徒の制作意欲を喚起する、励ましの言葉、声掛けの仕方の工夫。授業の展開時の生徒へのアドバイスの在り方を研究する。生徒への励ましの言葉、声掛けの仕方、褒め方の工夫 等		
8	8. 実習生の一日(学級活動、研究授業、生徒指導、特別活動、道徳指導、部活動指導など) 実習ノートの記入について 理解する。実習校の先輩教員の授業を観察する。授業参観し気付いたことをアドバイスシートに記入する。		
9	9. 話し方・挨拶練習1 ⇒ 教職員との関係づくり、研究授業反省会での挨拶と話し方を学ぶ。学級での自己紹介 現在、取り組んでいること、大学での制作活動、自己のこれまでの経験談などをまとめる。		
10	10. 話し方挨拶練習2 ⇒ 生徒交流の仕方、全校集会、学年集会、所属学級での挨拶を通じて自分の考えを整理する。 教員向けの挨拶文の作成、生徒向けの挨拶文の作成。		
11	11. 学校教育法、地方公務員法等、教員の服務規律と職務上の義務について学ぶ。 教育実習では、教員としてどのように生徒と接するか。守秘義務など。		
12	12. 教育実習校との事前打ち合わせについて 教育実習担当者から聞き取ること。		

13	13. 教育実習終了後にすぐに取り組むこと。教育実習ノートの実習校への提出、実習校へのお礼状の作成と送付。
14	14. 教育実習の振り返りと成果の検証 教育実習の成果と課題のまとめ 班別の話し合いを通じて教育実習を総括する。
15	15. 教育実習の総括から、求められる教師像、育てる生徒像とこれからの美術教育について考える。

科目名	美術科指導法 I	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【25 以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法 I では美術教育に関する基礎知識の学びや模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導のあり方を考える。作品制作を通して評価・評定を考察する。</p> <p>作品鑑賞会を通して主体的・対話的で深い学びが創造できる資質の向上を図る。</p>					
授業概要					
<p>中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編、美術編を理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法、及び生徒の学習意欲を高める評価方法の研究活動を推進する。また、美術資料等を活用し美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産についての理解を深め、鑑賞授業の進め方を研究する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導要領の教科の目標の理解(1H)教科書研究で年間指導計画を作る(1H)題材ごとの学習評価を学ぶ(1H)などを通じてわかりやすい授業づくりを常に考える習慣をつける。美術科教員としての専門性を高めるとい意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶はきっちりと行う。求められる教師像となる資質の獲得をめざして根気よく取り組む。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術教育レポート(美術科年間指導計画、美術教育が育てる学力)			20		
美術科学習指導案(わかりやすい美術の授業と評価を考える)			10		
模擬授業の評価(授業評価シートを活用していろいろな授業を学ぶ)			10		
美術科自己進捗評価の記録、完成作品の鑑賞シート、授業目標の到達度を自己評価する学習のまとめ、制作した作品点等			25		
期末筆記試験(美術科指導法 I の授業内容の理解度をはかりシラバス改善のために活用する)			35		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	美術 1、美術 2・3				
出版社名	光村図書出版株式会社	著者名	酒井忠康		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	美術資料(大阪府版)				
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会		
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課 指導主事 大阪市立中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法 I の授業目的と到達目標を理解する。中学校学習指導要領美術編の教科書の目標、指導計画 作成上の配慮事項について理解し、わかりやすい美術科学習指導案を作成する。		
2	教科書の研究。美術 1、美術 2,3 の教科書の内容を十分に理解し、研究を深め表現および鑑賞の調和のとれた各学年の美術科年間指導計画案を作成する。		
3	美術科学習指導案の作成の基礎を学ぶ。題材設定の理由、指導目標、指導計画、評価規準、準備物、指導過程など、美術科学習指導案の作成についての考え方を確実に理解する。		
4	パソコンを活用して、私の考える「美術科学習指導案」の研究と作成を進める。教育実習・校種の美術科学習指導案を完成し時間厳守で提出する。授業での導入時の話し方、板書・掲示計画を考える。		
5	模擬授業1 ⇒ 提出された美術科学習指導案や資料などで『美術科学習指導案集』を作成する。指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業評価シートを活用して授業評価を行う。		
6	模擬授業2 ⇒ 学習指導案の模擬授業を行う。受講者は評価シートで他者の模擬授業を評価する。 模擬授業は表現・鑑賞の領域、パソコン・視聴覚機器の活用グループ で 班分けを行い実施する。		
7	模擬授業3 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。受講者は指導案集に気付きを記録し研究に努める。 授業の導入時の説明は、パワーポイントやスマートフォンの画像拡大で行うのもよい。		
8	模擬授業4 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。受講者は評価シートで他者の模擬授業を評価する。 第4週は予備日として設定する。全員の模擬授業時に指導案の改善点や授業進行について協議する。		
9	作品制作と評価1⇒ 7世紀ごろに朝鮮半島から伝えられた屏風。部屋の仕切りや風よけの役割とともに美しい絵が描かれ、美術品としても愛された。屏風ならではの美しさや工夫について考え制作する。		
10	作品制作と評価2⇒ 教科書 美術 1「風神雷神図屏風」を鑑賞しようを 参考に屏風の形を考える。 屏風が対になった二曲一双や、構図、余白、折りによる空間や表現など その効果を捉えよう。		

11	作品制作と評価3⇒ 屏風の作品制作を通して美術科の指導と評価について考える。美術科・自己進歩 評価の記録カードを活用して、制作の進捗状況と制作態度を自己評価する。
12	作品制作と評価4 ⇒ 屏風の制作を通して美術科の指導と評価について考える。美術科学習の記録 (学習のまとめ)を活用し、制作過程ごとの目標に対して自己評価を行い、美術の学習を振り返る。
13	作品制作と評価5 ⇒ 作品鑑賞会。鑑賞シートを活用して自分の作品の工夫点・努力点をまとめる。 展示し自己作品を簡潔に説明する。全員の作品を鑑賞し心惹かれた作品を選んで味わい学びを深める。
14	美術科の学習指導と評価について振り返り学習をする。期末筆記試験 ⇒「美術科指導法Ⅰ」の授業内容について理解度をはかる。
15	期末筆記試験の返却。「美術科指導法Ⅰ」の授業を振り返り、美術科教員の専門性について理解する。 後期、美術科指導法Ⅱの授業についての予告を聞く。美術館の鑑賞など、鑑賞学習について理解する。

科目名	美術科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【25以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と美術という「芸術」を通じての人間形成である。美術科指導法Ⅱでは美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。また、美術史の学習と鑑賞映像の視聴で鑑賞教育を考察する。表現・鑑賞の美術科学習指導案を作成し、わかりやすい授業と評価が創造できる資質を高める。</p>					
授業概要					
<p>中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編をよく理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と、指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるために、鑑賞指導のビデオやDVDの視聴を通じて、国内外の代表的な美術作品についての理解を深め、鑑賞の授業の進め方を研究する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導要領の理解(1H)学習評価についての理解(1H)美術科学習指導案の正しい作成(1H)等の参考資料や資料収集を丁寧に行い、授業研究に有効に活用する。わかりやすい授業づくりはどのように取り組むかを常に考える習慣をつける。美術科の専門性を高めるという意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきちんと行う。美術教師に求められる資質の獲得をめざして根気強く取り組む。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術教育レポート(美術教育で育てる学力, 美術教育の必要性)			20		
美術科学習指導案(鑑賞領域および表現領域の美術科学習指導案)			10		
模擬授業の評価点(模擬授業の評価シートの活用)			10		
自己進捗評価の記録、作品鑑賞シート、美術科学習のまとめ、作品点			30		
授業内筆記試験			30		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	美術 1・美術 2.3				
出版社名	光村図書出版株式会社	著者名	酒井 忠康		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	美術資料(大阪府版)				
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会		
参考書名2	美術教育概論(新訂版)				

出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	大橋 功、新関 伸也、松岡 宏明、藤本陽三 佐藤 賢司、鈴木 光男、清田 哲男
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 大阪市立中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科教員に求められる資質 ⇒ 教員採用試験の概要を知る。美術科教員の専門性と資質を理解する。 学習指導要領解説美術編を熟読しこれからの美術教育を考える。表現と鑑賞の教育の大切さを理解する。		
2	墨で表現する楽しさ1 ⇒ 掛け軸や絵巻物などの水墨画などを鑑賞し、水墨表現と掛け軸などの良さを味わい制作の見通しを持つ。教科書・美術 1 を参考に水墨表現について考える。		
3	墨で表現する楽しさ2 ⇒ 水墨表現の作品を鑑賞する。水墨表現のための材料・用具の取り扱いの基本を理解し、実際に活動して様々な表現方法を体感する。		
4	墨で表現する楽しさ3 ⇒ 墨で表現された作品を鑑賞し、墨の濃淡や、かすれ、にじみなどの表現が、どのように使われているかを発見し、自分の表現の意図に沿って水墨表現し作品づくりを進める。		
5	墨で表現する楽しさ4 ⇒ 墨による表現の特性を生かして表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。 完成した作品の中から1つを選び、台紙に張り展示作品として完成させる。		
6	墨で表現する楽しさ5 ⇒ 自分の見方・考え方を大切にして完成した水墨画について説明する。みんなの作品を鑑賞する活動を通じて、表現の楽しさや良さにふれ、作品をしっかりと味わう。		
7	鑑賞教育の指導案の作成 ⇒ 「指導案作成の手引き」を参考に鑑賞教育の指導案を作成する。鑑賞の対象とする作品は教科書などを参考に日本、西洋などから選択する。締切厳守で提出する。		
8	模擬授業1 ⇒ 作成した鑑賞教育の美術科学習指導案を活用して模擬授業を行う。スライドショーの活用など、作品鑑賞の楽しさを味わわせる導入・展開を工夫する。		
9	模擬授業2 ⇒ 提出された指導案で「美術科学習指導案集」を作成する。指導案を参考に模擬授業を行う。受講者は授業評価シートで授業を評価する。パワーポイントなど視聴覚機器の活用を進める。		
10	模擬授業3 ⇒ 各自が模擬授業を行う。受講者は模擬授業評価シートを活用し授業を評価する。 導入の展開はスライドショーの活用など、わかりやすい授業の導入・展開を工夫する。		
11	模擬授業4 ⇒ 各自が模擬授業を行い、受講者は授業を評価する。導入は参考作品を提示するなど活動意欲を呼び起こす工夫を行う。板書計画、ワークシートなどの活用を工夫する。		

12	<p>模擬授業 5⇒ 各自が模擬授業を行い、受講者は授業を評価する。スマートフォンの映像等を 書画カメラを活用して、生徒がわかりやすい導入を工夫する。掲示物や参考作品の提示の工夫を 行う。</p>
13	<p>美術科の鑑賞教育 ⇒ 19世紀末、20世紀初頭にかけて西洋で巻き起こったジャポニズムは、モ ネ、ホイッスラーなど印象派の画家に大きな影響を与えた。浮世絵が世界の美術史に与えた衝撃を 探る。</p>
14	<p>鑑賞教育の在り方研究 ⇒ 名画の秘密「オランダの光と影」の鑑賞。オランダの街に潜む様々 な光と影をキャンバスに描いた巨匠達の作品と生涯を学び、鑑賞教材選択の一助とする。授業内 筆記試験。</p>
15	<p>美術教育の変遷とこれからの美術教育 ⇒ 生活や社会の中で美術文化と豊かに関わる資質・能 力を育成する美術教育をどのように創造するのかを考える。</p>

科目名	美術科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【24以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>中学校学習指導要領美術編の教科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。美術科指導法Ⅲでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して中学校・高等学校の美術科指導の理解を深め、模擬授業や相互鑑賞会を通じて、主体的・対話的で深い学びが実践できる資質の獲得をめざす。</p>					
授業概要					
<p>4年次の教育実習が円滑に進行するよう、中学校・高等学校の学習指導要領の教科の目標を理解し、適切な学習指導案の作成と学習評価が計画できる資質の獲得をめざす。美術表現の知識・技能を深め、作品制作を通じた指導と評価についての研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産等の美術史的知識と現代美術に関する知識の習得を図る。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導要領の教科の目標の理解(1H)指導計画の作成と内容の取扱い(1H)学習評価の理解(1H)教科書を参考にした指導案研究(1H)等を通して表現と鑑賞の正しい学習指導案が作成できる資質の獲得をめざす。作品の制作を通して観点別評価、評価の場面など指導と評価について理解を深める。美術科教員の専門性を深めるため国内外の代表的な美術作品についての理解を深める。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術科学習指導案(表現・鑑賞領域の美術科学習指導案)			10		
模擬授業の評価点(模擬授業の評価シートの活用)			10		
自己進度評価の記録、篆刻のアイデアスケッチ、篆刻の捺印、学習のまとめ、観賞シート、篆刻作品点			35		
美術教育レポート(美術教育が育てる学力,美術教育のこれから)			10		
授業内筆記試験			35		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	日文・高校生の美術Ⅰ				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	美術資料(大阪府版)				
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学美術教育研究会		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 大阪市立中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅲの授業目標と到達目標を知る。授業の方針と授業の概要について理解する。 学習指導要領・美術編を学ぶ。美術科の目標を理解する。		
2	美術科の目標、題材設定の理由のわかりやすい美術科学習指導案を作成する。パソコンを活用し、読みやすく、理解しやすい学習指導案を作成する。ワークシートや補助資料を添付するのも良い。		
3	模擬授業 1 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 PC スライドショー、視聴覚機器の活用、参考資料提示 等の グループ分けを行い円滑に進行する。		
4	模擬授業 2 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 様々な美術科学習指導案を参考に、美術科の指導と評価を考える。		
5	模擬授業 3 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。 導入時の話し方、参考作品の提示。展開時の生徒の学習活動をどう支援するかを考える。		
6	模擬授業 4 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。予備日。美術科学習指導案の記入の仕方や評価の観点、評価の場面等を指導案に反映する。展開時の生徒への励ましの言葉や机間指導を考える。		
7	篆刻をつくる1 ⇒ 作品制作をとおして評価の観点を盛り込んだ美術科学習指導案の作成を考える。 美術科自己進捗評価の記録 (Fine arts check card) に記入することで毎週の学習態度を自己評価する。		
8	篆刻をつくる2 ⇒ 作品の制作を通して完成した作品点のみならず、篆刻印面デザイン、印面のためし押しなどを通して彫りを修正するなど、制作過程の生徒の努力や工夫などを評価することを学ぶ。		
9	篆刻をつくる3 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻制作の学習の流れを 10 段階に整理し制作過程の目標を明確にする。(10 段階ステップ学習) 毎時間の制作態度を自己評価する。		
10	篆刻をつくる 4 ⇒ 授業での参考作品の提示や自己進捗評価の記録など、総合的な評価について考える。 ワークシートの活用研究。美術科学習の記録に記入することで、題材の振り返りや学習のまとめを行う。		

11	<p>篆刻をつくる 5 ⇒ 篆刻作品の相互鑑賞会を行う。観賞シートに篆刻の工夫点や制作意図を記入する。 鑑賞会の初めに自作について語る。次に篆刻作品を鑑賞して鑑賞シートに優れた点を文章表記する。</p>
12	<p>美術鑑賞教材の研究 1 ⇒ 日本・西洋美術のながれや、鑑賞の DVD 映像による鑑賞授業や美術館におけるギャラリートーク、対話型鑑賞について学ぶ。</p>
13	<p>美術鑑賞教材の研究 2 ⇒ 日本の美術、浮世絵作品の研究の Japonism について学ぶ。DVD 映像による鑑賞授業や美術館における対話型鑑賞を学ぶ。</p>
14	<p>美術科指導法Ⅲの振り返り ⇒ 授業、今後の鑑賞教育のあり方について。授業内期末試験 ⇒ 美術科指導法Ⅲの理解度をはかり、今後の授業改善に活用する。期末試験は指導法Ⅲの授業内容から出題する。</p>
15	<p>美術や美術文化を学び、豊かな人生を送るために美術科として育てる力と美術教育について考える。 美術教育研究者からの、造形表現・図画工作・美術教育への言葉を学ぶ。教育実習への準備と留意点。</p>

科目名	美術科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	田中 圭一				
クラス名	【19以降生対象】中学免許必須高校免許選択				
授業目的と到達目標					
美術科指導法Ⅳの目的は、美術科教育に関する基礎知識を理解するとともに、実践研究等を通して、中学校・高等学校の美術科の指導方法を習得できるようにすることである。具体的には、建学の精神の「創造性の奨励」を基に、「所属学科の特色を生かした学習指導案」の作成及び「模擬授業」の実践や「課題作品」の制作等を通して質の高い授業が創造できる資質・能力の育成を目指す。					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の理解を促し、適切な指導計画及び評価計画の作成に導く。 ○美術教育における基礎的な知識・技能を育成し、教材研究と指導方法および評価方法を学ばせる。 ○学習指導案を作成させ、発表形式の模擬授業の実践を通して、生徒にとって「わかりやすい授業」「楽しい授業」とは何かを協働的に考察する。 ○作品制作等を通して指導と評価についての研究を深め、個々の題材の教材化を図らせる。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ○美術科を指導する教師としての専門性を高めるという意識をもって参加する。 ○配布資料はきちんとファイルし、教科書とともに毎時間持参する。 ○模擬授業を行う時の参考作品や説明資料及び演習での材料・道具などは各自が準備する。 ○「振り返りシート」等、記録する習慣をつけ、授業の成果と課題を明確にできるよう整理する。 ○授業の始業には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきちんと行う。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			20		
美術科学習指導案			20		
主体的に授業に取り組む態度及びレポート等			40		
課題作品制作			20		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>元中学校美術科教諭(中・高美術専修免許)、教育委員会指導主事、中学校校長、小学校校長を経験した教員が、多様な教育現場での美術科授業及び美術科教員の研修指導の経験並びに現在所属する日本教育美術盟理事としての活動等を活かし、実践的、具体的な指導方法を授業する。 また、行動美術協会会員等である自身の作家活動の経験も活かし、クリエイターである学生の意識に寄り添いながら美術教育に導いていく。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「美術科指導法Ⅲ」ガイダンス 授業目的と到達目標を知る。 授業の方針と授業の概要について理解する。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領解説美術編の内容について 改訂の背景と意義について理解する。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導計画等について 各学年の年間指導計画及び美術科学習指導案について理解する。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○美術科学習指導案作成 自分の得意題材の美術科学習指導案を作成し提出する。 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬授業1 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬授業2 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬授業3 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬授業4 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ○表現教材の研究→「音楽と美術のハーモニー」～音・形・色～ 抽象表現を通して表現の多様性を学ぶ。 		
10	<ul style="list-style-type: none"> ○表現教材の研究→「自画像」1 		

	<p>デッサンで自画像を描く。 作品制作から評価の観点を考える。</p>
11	<p>○表現教材の研究→「自画像」2 前時のデッサンをもとに水彩絵の具等で心象を含めた自画像を制作する。 作品の制作に集中させる言葉がけを考える。</p>
12	<p>○表現教材の研究→「自画像」3 制作意欲を高める工夫について考える。 技法について工夫する。</p>
13	<p>○表現教材の研究→「自画像」4 制作された作品を展示する。 作品制作の過程について発表し相互評価を行う。</p>
14	<p>○鑑賞教材の研究1 映像等による鑑賞、アートカードを使った鑑賞、美術館を活用した鑑賞、対話型鑑賞等について学ぶ。</p>
15	<p>○鑑賞教材の研究2 学習環境の整備や校内作品展示の工夫等について学ぶ。 ○美術科経営の理念について 学校現場で活躍する先輩教員から学ぶ。 ○授業全体の振り返りとまとめ</p>

科目名	音楽科指導法 I	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
【授業目的】・学習指導要領に則り、音楽科教育の指導内容について理解する ・指導内容に基づき、指導と評価の一体化を図り、指導法の充実を図る ・学習指導案やレポートの作成を通して教員に求められる資質能力の向上を図る					
【到達目標】 ・表現および鑑賞領域において授業構成のための基礎基本を習得する					
授業概要					
・学習指導要領の理解 ・学習指導案の作成 ・実技指導法「歌唱・器楽」の習得					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・音楽科教育の基礎知識の習得と実践を通して音楽科指導法について理解する ・A 表現:歌唱は共通教材等のピアノ伴奏および模唱を習得する ・A 表現:器楽は模範演奏技能を習得する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実技テスト・指導案・模擬授業・レポート・提出物等			70		
平常点			30		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説―音楽編				
出版社名		著者名	文部科学省		
教科書2	中学音楽 音楽のおくりもの 1/2・3 上下 中学器楽				
出版社名		著者名	教育出版		
教科書3	中学生の音楽 1/2・3 上下 中学生の器楽				
出版社名		著者名	教育芸術社		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	学習指導要領解説 音楽編の理解①		
2	学習指導要領解説 音楽編の理解②		
3	学習指導要領解説 音楽編の理解③		
4	学習指導要領解説 音楽編の理解④		
5	A表現 歌唱指導の習得①		
6	A表現 歌唱指導の習得②		
7	学習指導要領 音楽編の理解(「共通事項」について)		
8	学習指導計画の理解①(授業づくりについて)		
9	学習指導計画の理解②(授業づくりについて)		
10	学習指導案の作成演習「歌唱」①(題材の設定)		
11	学習指導案の作成演習「歌唱」②(指導の流れ・「めあて」について)		
12	学習指導案の作成演習「歌唱」③(「導入・展開・振り返り」時間配分等について)		
13	学習指導要領音楽編の理解(「共通事項」小中学校の連携について)		
14	A表現 歌唱指導の習得		
15	A表現 器楽指導の習得		

科目名	音楽科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
【授業目的】					
・学習指導要領に則り、音楽科教育の指導内容について理解する					
・指導内容に基づき、指導と評価の一体化を図り、指導法の充実を図る					
・学習指導案作成等を通して教員に求められる資質能力の向上を図る					
【到達目標】					
・表現および鑑賞領域において授業構成のための基礎基本を習得する					
授業概要					
・学習指導要領の理解・学習指導案の作成・「主体的・対話的で深い学び」の実践・実技指導法の充実・評価についての理解・授業内容の理解と定着は確認テストで行う					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・音楽科教育の基礎知識の習得と実践を通して音楽科指導法について理解する					
・A表現:歌唱は共通教材のピアノ伴奏および模唱を習得する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実技テスト・指導案・模擬授業・レポート・提出物・確認テスト等			70		
平常点			30		
教科書					
教科書1	中学校学習指導要領解説―音楽編				
出版社名		著者名	文部科学省		
教科書2	中学音楽 音楽のおくりもの 1/2・3 上下 中学器楽				
出版社名		著者名	教育出版		
教科書3	中学生の音楽 1/2・3 上下 中学生の器楽				
出版社名		著者名	教育芸術社		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	評価について①(目標に準拠した評価)
2	評価について②(観点別評価)
3	評価について③(評価方法実践演習)
4	歌唱指導法について(模範演奏確認テスト①)
5	学習指導案の作成演習「鑑賞」①(題材の設定)
6	学習指導案の作成演習「鑑賞」②(指導内容の確認)
7	学習指導案の作成演習「鑑賞」③(「めあて・展開・振り返り」について)
8	和楽器の指導について①
9	和楽器の指導について②(実践事例作成)
10	創作領域の指導法について(具体例による実践演習)
11	確認テスト
12	主体的・対話的で深い学びの実践について(表現領域:歌唱)
13	主体的・対話的で深い学びの実践について(表現領域:器楽)
14	主体的・対話的で深い学びの実践について(鑑賞領域)
15	音楽科指導法 I の総括

科目名	音楽科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	小牟田 啓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本授業は、「教師が何を教えるか」という考え方のみならず、「子どもたちにどのように学んでもらうか」「子どもたちに獲得させたい資質・能力をどう育むか」といった、各自の授業デザインを、「学習指導要領」に則った、具体的な授業構成ができる技能を学びます。</p> <p>また、音楽科授業を通しての、子ども達の様々な「なぜ」と向き合い考えることで、「感性」を大切にした「人間力」を育む音楽科指導法を学びます。</p> <p>■授業目的は、音楽科指導法Ⅰ・Ⅱの授業内容を踏まえ、生徒の活動目標を「3観点」(①知識及び技能、②思考力判断力表現力等、③主体的に学習に取り組む態度)で決めます。</p> <p>その上で、指導者の評価の物差しとなる「評価規準」を表裏一体化し、生徒全員が「概ねB」がとれるよう設定するとともに、指導事項と[共通事項]を授業構成の支えとし、「学習指導案&ワークシート」作成のための音や音楽に関わる「見方・考え方」を身につけます。</p> <p>■到達目標は、教育実習に向けた授業デザイン案を、学習指導要領(音楽)に則った「指導事項」[共通事項]「評価規準」「題材目標」を基盤とした、「2領域・4分野」の具体的な「学習指導案&ワークシート」が立案・作成できることをめざします。</p>					
授業概要					
<p>■講義は、検定教科書から</p> <p>①「2領域・4分野」の具体的な授業教材を選択し</p> <p>②指導事項、[共通事項]を授業計画の支えとし</p> <p>③音楽的な見方・考え方を働かせ</p> <p>④「主体的・対話的で深い学び」による学習形態を追求します。</p> <p>■特に、小・中、2社の検定教科書(2社8冊)から、小中9年間の学びの連続性と系統性を重視した「教科書採択演習」の比較検討を研究します。</p> <p>■講義内容の主要ポイント理解の定着確認については、毎回の授業課題「授業内KIZUKI報告」を重視します。(60%強)</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>■特に、中学校の授業は概ね週一回です。</p> <p>前回の授業でどんな音と音楽から、どんな知覚・感受をアウトプットし、表現の工夫をしたかを、主人公の生徒が思い出せない、確認できないでは困ります。</p> <p>週1回の授業では、「この時間で学習した内容」を、どれだけ生徒が鮮明に思い出せるかが学習の積み上げとして必要です。</p> <p>ワークシート作成や、楽譜作成など、教育現場は近年ICT活用が急ピッチに進んでいます。その為にも指導者には、デジタル化された、教材提示のスキルが求められます。</p> <p>Microsoft-Office3</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
■毎回の授業内「KIZUKI課題」の提出と演習試験			60		
■課題教材に対する授業デザイン力(授業構成チェックシートの作成)			20		
■主体的に学習に取り組む態度			20		
教科書					
教科書1	■『中学校学習指導要領解説 - 音楽編』(平成29年告示版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名	(著)文部科学省(2018)		

教科書2	■中学生の音楽 1、2・3 上下、中学生の器楽(令和 3 年度版)		
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名	
教科書3	■中学音楽 音楽のおくりもの 1、2・3 上下、中学器楽(令和 3 年度版)		
出版社名	(出)教育出版社/必須購入	著者名	
参考書・参考文献			
参考書名1	■「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料		
出版社名	(出)東洋館出版社	著者名	(著)文部科学省国立教育政策研究所/令和 2 年度版
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
<p>■授業では、教育現場の GIGA スクール構想(1 人一台タブレット)に対応した、</p> <p>①「PC の常時持参」</p> <p>②「検定教科書」(2 社 8 冊)</p> <p>③「学習指導要領」を 持参しながら参加すること。</p> <p>■尚、A 表現(1)歌唱の共通教材 5 曲とは、「赤とんぼ」「花」「荒城の月」「早春賦」「花の街」を示します。 また、B 鑑賞では「日本の伝統文化」からの楽曲を扱います。</p>			
教員実務経験			
大阪府中学校音楽教育研究会前会長・現顧問、近畿音楽教育連合会前代表理事、JBA 日本吹奏楽指導者協会会員、元中学校校長、元教育委員会総括指導主事等			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.【音楽科における”学びの本質”と”意義”】 ・「音楽科で育む”感性”とは」 ・「なぜ学校の授業で音楽科を学ぶのか”音楽科の授業を学ぶ意義”」		
2	2.【これまでの「学習指導要領」の成果と課題】 ・「音楽科の 2 領域・4 分野の定着の成果と課題」 ・【共通事項】を支えとした知覚・感受とは		
3	3.【学習指導要領改訂の基本的な考え方】 ・「学習指導要領の内容構成の改善と考え方」 ・「小・中・高の概要と構成の比較を通して」		
4	4.【新学習指導要領改訂の主要なポイント】 ・ 一体的な「主体的・対話的で深い学び」とは ・ 音楽科における「見方・考え方」とは		
5	5.【題材構成を要とした”学習指導案”の作成】 ・学ばせたい音楽的事項を”題材名”にする重要性		

	・学ばせたい音楽的事項を適切に指導計画にするには
6	6.【音楽科で育成される3つの資質・能力】 ・「知識及び技能」の習得・「思考力、判断力、表現力等」の育成 ・「学びに向かう力、人間性等」の涵養
7	7.【中等科音楽科教育における教育評価のあり方①】 ・「概ね満足 B と判断する”評価規準”を大切にす視点」 ・「概ね満足 B と判断する”評価規準”と”評価基準”の違い」
8	8.【中等科音楽科教育における教育評価のあり方②】 ・「指導計画」と「評価計画」を表裏一体にする意味 ・「評価から評定」の関係と「指導と評価の一体化」
9	9.【小中校種間の連携と音楽科の学力】① 【授業内 Group 演習】 ・小中学校 “検定教科書”から観る音楽の力 ・「教科書採択」演習
10	10.【小中校種間の連携と音楽科の学力】② 【授業内 Group 演習】 ・指導事項及び[共通事項]からの系統性 ・小中・世代を繋ぐ「日本の四季の歌」の魅力
11	11.【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】 ①「A 表現(1) 歌唱分野」指導事項ア、イ、ウの捉え方のコツ 【授業内 Group 演習】
12	12.【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】 ②「A 表現(2) 器楽分野」指導事項ア、イ、ウの捉え方のコツ 【授業内 Group 演習】
13	13.【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】 ③「A 表現(3) 創作分野」指導事項ア、イ、ウの捉え方捉え方のコツ 【授業内 Group 演習】
14	14.【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】 ④「鑑賞領域 B 鑑賞分野」指導事項ア、イの捉え方のコツ 【授業内 Group 演習】
15	15.【講義のまとめと総括】 ・音楽科指導法Ⅳ、直前の教育実習に向けた授業計画の準備

科目名	音楽科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	小牟田 啓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本授業は、音楽科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内容を踏まえた、教育実習直前の音楽科指導法の総まとめとして、「難しいことをやさしく」「やさしいことを簡単に」「簡単なことを楽しく」をモットーに、履修学生全員参加による、「2026年度版 研究収録冊子」(2領域・4分野の授業デザイン・学習指導案&ワークシート含む)の作成完成をめざします。</p> <p>■授業目的は、教育実習に向けた2領域・4分野の教材研究による実践演習を中心に進め、更なる授業展開の実践力を高めます。</p> <p>■また、全中、近中、府中音楽教育研究会が開催した最新版の実践資料をグループワークで研究し、教育実習に向けた、より高い授業構想、教材開発力を身につけます。</p>					
授業概要					
<p>■講義は、</p> <p>①「2領域・4分野」の教材選択力と各分野の有効性</p> <p>②学習指導要領の示す「留意事項」を踏まえた授業構成の留意点</p> <p>③今日的課題を踏まえた授業構成④「出合授業」の演習等の研究を協働的に進めていきます。</p> <p>■講義内容の主要ポイント理解の定着確認については、毎回の授業課題「授業内 KIZUKI 報告」と「研究収録冊子最終入稿学習指導案」で見取ります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>■日頃より、自らの専門分野を生かした音楽的見地を授業開発に活かせるよう心がけ、研究しておいて下さい。■尚、教育実習における生徒とのファーストコンタクトとなるオープニング授業「出会い授業」(演習試験:約7分)の授業構想では、自分の専門性を生かした"音と音楽"を活用した出会い企画を準備しておいて下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
■ 毎回の授業内「KIZUKI 課題」の提出と演習試験			60		
■ 「2026.版 研究収録冊子」への最終入稿学習指導案			30		
■ 主体的に学習に取り組む態度			10		
教科書					
教科書1	『中学校学習指導要領解説 - 音楽編』(平成29年告示版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名	(著)文部科学省(2018)		
教科書2	中学生の音楽 1、2・3 上下、中学生の器楽(令和3年度版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名			
教科書3	中学音楽 音楽のおくりもの 1、2・3 上下、中学器楽(令和3年度版)				
出版社名	(出)教育出版社/必須購入	著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料				
出版社名	(出)東洋館出版社	著者名	(著)文部科学省国立教育政策研究所/令和2年度版		
参考書名2					
出版社名					

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
<p>■授業では、教育現場の GIGA スクール構想(1 人一台タブレット)に対応した</p> <p>①「PC の常時持参」</p> <p>②検定教科書(2 社 8 冊)</p> <p>③学習指導要領を 持参しながら参加すること。</p> <p>また、Microsoft-Office365、楽譜作成ソフト(無料版)「Muse Score」(音確認 OK)、「Flat」(Google Classroom 連携可)、ホワイトボード共有 Google Jamboard、音楽制作アプリ GarageBand 等の PC 活用環境を整えておくこと。</p>			
教員実務経験			
大阪府中学校音楽教育研究会前会長・現顧問、日本吹奏楽指導者協会会員、近畿音楽教育連合会前代表理事、元中学校校長、元教育委員会総括指導主事等			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.【「2026.版 研究収録冊子」の作成に向けて】 ・「音楽科指導法Ⅳの進め方及びガイダンス」		
2	2.【今日的課題に対応した「音楽科」のあり方】 ・「今日的課題に向き合う音楽科の役割」		
3	3.【音楽科授業の内容として、ふさわしくない授業】① ・「音楽科の”基礎・基本”の指導計画が存在しない授業」とは		
4	4.【音楽科授業の内容として、ふさわしくない授業】② ・「指導と評価の一体化が計画されていない授業」とは		
5	5.【「留意事項」を踏まえた授業構成の工夫】① ・学習指導要領第 3.2(1)ウ「知覚したことと感受したこととの関わりを基にした、体を動かす活動を取り入れた学習活動の工夫」		
6	6.【「留意事項」を踏まえた授業構成の工夫】② ・学習指導要領第 3.2(1)ア「音楽活動を通して、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせ、生活や社会との関わりを実感できる学習活動の工夫と自然音や環境音などの取り扱い」		
7	7.【「留意事項」を踏まえた授業構成の工夫】③ ・学習指導要領第 3.2(1)カ「自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度を図るとともに、音楽に関する知的財産権について触れた学習活動の工夫」		
8	8.【「留意事項」を踏まえた授業構成の工夫】④ ・学習指導要領第 3.2(1)エ「生徒が主体的に学習に取り組んだりすることができるよう、コンピュータや教育機器を効果的に活用できる学習活動の工夫」		
9	9.【今日的課題を踏まえた授業構成の演習】① 【Group 演習】 ・概ね「週 1 回の音楽科の授業」による効果的な学習展開をめざした「表現領域と鑑賞領域の連携」を図った授業デザイン		
10	10.【今日的課題を踏まえた授業構成の演習】② 【Group 演習】 ・「日本の音・音楽」を題材とした授業デザイン		

	・「生活や社会の中の音や音楽」を題材とした授業デザイン
11	11.【情報機器(D 教科書、タブレット、PP、録音技術等)を活用した教材提示力を活かした授業構成】①【Group 演習】 ・PPによるプレゼン、WS等に楽譜を貼り付ける技能演習等
12	12.【情報機器(D 教科書、タブレット、PP、録音技術等)を活用した教材提示力を活かした授業構成】②【Group 演習】 ・「創作授業」による模範演奏作成の技能演習
13	13.【各自の専門性を生かした“音と音楽”を活用した出会い授業】① 【個人演習】 ・教育実習における生徒との初めての出会いとなる授業
14	14.【各自の専門性を生かした“音と音楽”を活用した出会い授業】② 【個人演習】 ・教育実習における生徒との初めての出会いとなる授業
15	15.【「難しいことを簡単に」「簡単なことを分かりやすく」「分かりやすいことを楽しく」】 ・2 領域・4 分野の「学習指導案&ワークシート」完全版の検修と入稿 ・教育実習に向けた授業計画の直前準備

科目名	工芸科指導法 I	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名	教職課程				
授業目的と到達目標					
<p>工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。また教育者として社会に貢献し得る能力を修めることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使っの教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書					
教科書1	教科書 工芸 I 工 1-701				
出版社名	日本文教出版	著者名	横田 学 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編				
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省		
参考書名2	教授資料 工芸 I 工 1-701				
出版社名	日本文教出版	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を活かし、実践的な場面を想定した具体的な指導方法の授業を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	工芸及び工芸科教育についての概説と考察
2	工芸科教育の目標(学習指導要領解説など)について解説と考察
3	教科書の解説と模擬授業1・オリエンテーション／つくる喜び・暮らしのかたち・身近な生活環境と工芸 (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
4	教科書の解説と模擬授業2・観察から表現／生活を観察する・美しい造形へ・観察と表現・考える (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
5	教科書の解説と模擬授業3・造形の機能と構造／機能と造形(にぎる・つつむ)・構造と造形(すわる・あかり) (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
6	教科書の解説と模擬授業4・造形の成形と色彩／つくる技術・材料の魅力・テクスチャー・色彩について (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
7	教科書の解説と模擬授業5・つくる-材料と技法／木でつくる・土でつくる・編む・染める (情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
8	学習指導案及び年間指導計画案についての解説と考察
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる1／導入説明・発想・材料取り
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる2／削る
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる3／研磨する
12	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる4／装飾する
13	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる5／仕上げ
14	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる6／鑑賞・まとめ (情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
15	課題(竹箸をつくる)の学習指導案の提出・発表・考察

科目名	工芸科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。また教育者として社会に貢献し得る能力を修めることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験、提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書					
教科書1	高等学校芸術科工芸1・教科書				
出版社名	日本文教出版	著者名	小松敏明 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編				
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省		
参考書名2	高等学校芸術科工芸1・教授資料				
出版社名	日本文教出版	著者名	小松俊明 他		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を活かし、実践的な場面を想定した具体的な指導方法の授業を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	工芸及び工芸教育に関連する視聴覚教材を視聴し、授業設計への活用方法を考える
2	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード1／導入説明・既成型紙を使って試作
3	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード2／発想・デザイン(情報機器を活用し、デザイン図案を作成する学習指導案を考える)
4	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード3／試作
5	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード4／本制作
6	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード5／鑑賞・まとめ
7	課題(オリジナル立体カード)の学習指導案の提出・発表・考察(情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
8	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル1／導入説明・発想・デザイン
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル2／試作
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル3／本制作
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル4／鑑賞・まとめ
12	課題(ペットボトルキャンドル)の学習指導案の提出・発表・考察(情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
13	工芸科教育の鑑賞及び評価について
14	工芸科教育の環境(教室など)について
15	本授業のまとめ・授業アンケート他／後日の定期試験にて試験実施

科目名	教育とICT活用の理論と方法	年次	3	単位数	1
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	北浦 米造				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>これからの学校教育では、個別最適で協働的な学びの実現とともに情報活用能力の育成、また校務の情報化に向けて、教員はICTを活用し指導する能力が求められている。そこで、本授業では建学の精神である実用的合理性の重視に基づき、中学校及び高等学校教員として必要となるICT活用能力を獲得するため、次の到達目標を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの意義や事例等をもとに、様々な授業場面において効果的なICT活用が設計できる。 ・1人1台の双方向通信機能等を生かした端末操作やデジタル教材の作成、基本的な校務処理ができる。 ・情報モラルの意識と視点をもって、生徒の情報活用能力を育む指導ができる。 					
授業概要					
<p>GIGAスクール構想の理念に基づき、1人1台端末の環境で、双方向の通信機能を活用して授業を進める。主な授業の流れは、ICTの意義や教科等の具体的な活用事例をもとに、演習を通しての操作スキルを身につける。そして、それらが他の授業でも応用できるよう、ICT活用の授業場を設定したり、デジタル教材を利活用したりして相互発表で学びを深める。また、今後加速度的な普及が進むであろう生成AIについても文科省のガイドラインに沿って演習を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>ICT活用は教員にとって、授業や校務全般にわたり必要不可欠な職務能力となることから、積極的に学びを進めてスキルや応用力を身につけること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業や課題の取り組み			50		
発表や成果物			50		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	必要資料は、授業毎に配布します。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
北浦米造: 学校でコンピュータ導入の黎明期から現在の端末整備に至るまで ICT の活用研究や情報教育の推進、教員研修を担ってきた。その教員・管理職経験を活かし、ICT 活用の今日のニーズを踏まえて、学校現場の学習状況を想定しながら、より実践的で汎用性が高い演習を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション、GIGA スクール構想		
2	国語科を事例とした双方向、シンキングツールの活用		
3	国語科における ICT の活用方法と授業設計		
4	美術科における ICT の活用方法と授業設計		
5	美術科における鑑賞の教材化と学習課題の設定		
6	教科共通、探求学習におけるまとめ方の演習		
7	音楽科における ICT の活用方法と授業設計		
8	音楽アプリの教材化①と創作演習		
9	音楽アプリの教材化②と WEB 活用		
10	描画アプリの機能を生かした活用法		
11	コマ撮りアプリを活用した作品制作		
12	生成 AI による教材アプリの利用と自作方法		
13	生成 AI に関するガイドラインに沿った校務活用法		
14	情報モラルとセキュリティの心構えと指導法		
15	教育資料の収集と活用、ICT 活用のまとめ		

科目名	教職教養演習 I (基礎)	年次	2	単位数	1
授業期間	2026 年度 後期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教員採用試験に向けて専門実技等の対策を行う。					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験に向けての実技対策 ・面接練習、模擬授業、場面指導対策 ・筆記試験(一次・二次)対策 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
目的意識を持って前向きに取り組み、教員採用試験合格を目指す					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点			100		
教科書					
教科書1	中学生の音楽				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書2	音楽のおくりもの				
出版社名	教育出版社	著者名			
教科書3	学習指導要領解説―音楽編				
出版社名	文部科学省	著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	受験予定自治体の試験概要の把握
2	中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導
3	・中学校共通教材の弾き歌い、ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
4	・中学校共通教材の弾き歌い、ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
5	・中学校共通教材の弾き歌い、ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
6	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
7	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
8	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
9	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策
10	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策・面接対策
11	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策・面接対策
12	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策・面接対策
13	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策・面接対策
14	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策・面接対策
15	・中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技指導 ・筆記試験対策・面接対策

科目名	教職教養演習Ⅰ(基礎)	年次	2	単位数	1
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教職教養演習Ⅰ(基礎)				
授業目的と到達目標					
<p>教員採用試験は各都道府県、政令指定都市ごとに実施されている。教職教養演習Ⅰは中学校・高等学校の教員採用試験の受験を目指す2、3年次生を対象としている。変化の激しい社会の中で教員に求められる資質や能力は幅広い。</p> <p>採用試験の動向を早期につかみ、基礎的な学習や演習を通して教員採用の道を実践に開くように取り組む。</p>					
授業概要					
<p>教員採用に関する教職教養や専門知識を確実に習得し、教員としての専門性を高める指導を充実する。中央教育審議会の答申や学習指導要領の総則、教科の目標等をよく理解し教育の方向性と正しい学習指導案が作成できる資質を獲得する。また、面接個票・エントリーシートの作成を通じて、めざす教師像、育てる生徒像、つくる学級像など取り組みたい生徒指導・教科指導の方向性を確立させる。面接練習、集団討論を通じて自分の考えを簡潔に話す練習を重ねる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>教育を取り巻く世界や日本の状況をよく理解し、習得すべき内容を確実に身に付けるように努力する。また、教師の専門性を高めようという意識を持って参加すること。挨拶の大切さを理解し日常生活で明るく元気に挨拶する習慣を身につける。教職に対する情熱を失わず、着実にスキルアップできるように粘り強く取り組む。教員に対するマイナス報道が多いですが、めざす教員像を確かに持って努力する。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
自己分析プロデュース用紙の記入内容			20		
面接個票・エントリーシート			20		
課題論文(めざす教師像、育てる生徒像、つくる学級像)			20		
面接練習の評価点			20		
面接のための面接ノート			20		
教科書					
教科書1	教員採用試験対策 参考書 教職教養Ⅰ				
出版社名	七賢出版 株式会社	著者名	東京アカデミー		
教科書2	教員採用試験対策 参考書Ⅱ 教職教養Ⅱ				
出版社名	七賢出版 株式会社	著者名	東京アカデミー		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教務部教職員課管理主事 大阪市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	教職教養演習Ⅰのシラバスと授業方針を理解する。受験自治体の教員採用情報の収集と学習計画の立案。 受講カード記入、自己分析プロデュース企画書の記入。		
2	中央審議会の答申と学習指導要領の要点を学ぶ。 教育原理 学習指導要領関連のテスト。		
3	学習指導要領の総則の内容と教科の目標を理解する。 教科の目標を理解し、教科指導のあり方を理解する。		
4	面接の基本 面接時の立居振舞と面接官の基本的な質問内容を理解する。 質問に対する、回答について自分の意見を文章化する。		
5	学習指導と生徒指導について学ぶ。生徒指導提要の内容の理解。 教育史の小テスト		
6	教育基本法について学ぶ。教育基本法の18条を理解する。 教育心理の小テスト		
7	教員採用試験の過去問題を使って問題の解答方法を学ぶ。 大阪市等の一次採用過去問題を活用した模擬テスト①		
8	教員採用試験対策。教育課題論文1「めざす教師像」 教員として「めざす教師像」について考えをまとめる。		
9	面接練習1 予想質問に対する回答を考える。 面接の基礎基本を学ぶ。		
10	面接練習2 基本的な質問例100について回答を考える。 受験する自治体の求める教師像は。教育振興基本計画は。教育施策は。		
11	教職員の服務、教育関連法規について学ぶ 地方公務員法を理解する。教育課題論文2「育てる生徒像」		
12	面接個票、エントリーシートに記入する。面接個票、エントリーシートへの記入内容をまとめる。 面接個票、エントリーシートに自分の考え、経験、資格、等を正しく読みやすく記入する。		
13	集団討論GD「育てる生徒像」「つくる学級像」 グループに分かれて集団討論を行う。自分の意見をまとめる。他者の意見を理解する。		
14	面接練習3 基本的な動きを理解する。話し方の基本を習得する。 挨拶、話し方、視線、歩き方・礼の仕方など。		
15	教員採用試験の模擬試験② 教員採用試験を目指す学習とは。 出題内容を把握し、以後の各自の学習計画を立案する。		

科目名	教職教養演習 I (発展)	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2026 年度 後期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教員採用試験に向けて筆記対策・実技対策を行う					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技指導 ・弾き歌い実技指導 ・面接指導 ・模擬授業指導 ・場面指導対策 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
目的意識を持って前向きに取り組み、教員採用試験合格を目指す					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点			100		
教科書					
教科書1	中学生の音楽1、2・3上下				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書2	音楽のおくりもの1、2・3上下				
出版社名	教育出版社	著者名			
教科書3	学習指導要領解説 音楽編				
出版社名	文部科学省	著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
元中学校校長がその実務経験を活かして指導する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	全時間にわたって計画的の実施する ・中学校共通教材の弾き歌いの指導 ・アルトリコーダー初見視奏の指導 ・ピアノ初見視奏の指導 ・初見視唱の指導 ・一般教養対策 ・二次専門試験対策 ・小論文対策 ・面接対策 ・模擬授業対策 ・場面指導対策

科目名	教職教養演習Ⅰ(発展)	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2026年度 後期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教職教養演習Ⅰ(発展)				
授業目的と到達目標					
<p>教員採用試験は各都道府県、政令指定都市ごとに実施され、出題傾向は多種多様である。教職教養演習Ⅰは中学校・高等学校の教員採用試験の受験を目指す2、3年次生を対象としている。変化の激しい社会の中で教員に求められる資質や能力は幅広い。採用試験の内容を把握し、基礎的な学習や演習を通して、教員採用の道を実践に開くよう取り組む。</p>					
授業概要					
<p>教員採用試験に関する教職教養や専門知識を確実に習得するなど、教員としての専門性を高める指導を充実させる。</p> <p>中央教育審議会の答申や学習指導要領の総則、教科の目標をよく理解し、教育の方向性と正しい学習指導案が作成できる資質を獲得する。面接個票、エントリーシートの作成を通してめざす教師像、育てる生徒像、つくる学級像取り組みたい授業論を確立する。面接練習や集団討論を通して、自分の考えを簡潔に話す練習を重ねる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>世界の動きと社会の変化や教育に関するマスメディアの動向に関心を持つこと。教育を取り巻く世界の状況をよく理解し習得すべき内容を確実に身に付けるように努力する。教師の専門性を高めると意識を持って参加すること。</p> <p>挨拶の大切さを理解し、日常生活の中で明るく元気に挨拶する習慣をつける。教職に対する情熱を失わず、教員採用試験に向けた情報と資質を確実に習得するように努力する。教員・教職のマイナスイメージの報道が多い中であるが目指す教員像を確かに持って着実にスキルアップできるように努力する。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
自己分析・自己プロデュース企画用紙			20		
面接個票・エントリーシート			20		
課題論文(めざす教師像 育てる生徒像)			20		
面接練習の評価点			20		
面接のための面接回答ノート			20		
教科書					
教科書1	教員採用試験対策 教科書Ⅰ 教職教養Ⅰ				
出版社名	七賢出版 株式会社	著者名	東京アカデミー		
教科書2	教員採用試験対策 参考書Ⅱ 教職教養Ⅱ				
出版社名		著者名	東京アカデミー		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教務部教職員課管理主事 大阪市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1. 教書教養演習Ⅰのシラバスと授業方針を理解する。受験自治体の教員採用試験の情報収集と学習計画の立案。 受講カードの記入。自己分析プロデュース企画書の記入。		
2	2. 中央教育審議会の答申や学習指導要領の要点を学ぶ。 教育原理 学習指導要領関連の小テスト1。		
3	3. 学習指導要領の総則の内容と教科の目標を理解する。 教科の目標を理解し、教科指導のこれからの方向性を理解する。		
4	4. 面接の基本、面接官の基本的な質問内容を知る。 教育原理の小テスト2。		
5	5. 学習指導と生徒指導について学ぶ。 教育史の小テスト。		
6	6. 教育基本法について学ぶ。 教育心理の小テスト4。		
7	7. 教員採用試験の模擬試験① 大阪市等の一次採用試験の過去問題を活用した模擬テスト。		
8	8. 教育課題論文1「めざす教師像」 教員として各自がめざす教員像について考えをまとめる。		
9	9. 面接練習1 予想質問に対する回答を考える。 面接の基礎・基本を学ぶ。		
10	10. 面接練習2 基本的な質問例についての回答を考える。 受験自治体の求める教員像は。教育振興基本計画は。教育施策は。		
11	11. 教職員の服務、教育関連法規について学ぶ。 地方公務員法を理解する。教育課題論文2「育てる生徒像」		
12	12. 面接個票・エントリーシートの作成。 面接個票・エントリーシートの記入内容を考察する。		
13	13. 集団討論 GD「育てる生徒像」「つくる学級像」 グループに分かれて集団討論を行う。他者の討論内容についても理解する。		
14	14. 面接内容3 基本的な動きを習得する。話し方の基本原則を体得する。 挨拶、話し方、視線、歩き方・礼の仕方など。		

15

15. 教員採用試験の模擬試験②
教員採用試験の受験をめざす学習とは。

科目名	教職教養演習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教員採用試験対策講座教職教養演習Ⅱ(直前)				
授業目的と到達目標					
<p>教員採用試験は各都道府県、政令指定都市ごとに実施され、出題傾向は多種多様である。また、文部科学省は新任教員の適性を前もって見極める教師インターン制度の導入を検討するなど教員の資質向上を図る動きもあり、教員への道は厳しいものになっている。本演習は教員採用試験の受験を目指す4年次生を対象に、受験教科・自治体の教員採用試験情報を収集分析し、適切な学習と演習を通じて資質の向上を図り、教員採用の道を開く授業内容とする。</p>					
授業概要					
<p>教員としての資質向上に関する指標の基本的資質、子ども理解、学習指導、組織の運営と参画について理解する。</p> <p>教員採用試験に出題される教職教養や専門知識を習得し教師としての専門性を高める。集団面接や個人面接の練習を通じて、自己分析し短く簡潔に話す習慣を身につける。さらに、受験する自治体の求める教員像や教育振興基本計画の内容を理解して、自己のめざす教員像や、育てる生徒像を簡潔に話す言語力を獲得する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>マスメディアの情報に注意し、教育を取り巻く状況の変化を把握すること。また、習得すべき内容を確実に身につけるための努力を怠らない。学習指導要領をよく理解し、生徒にとってわかりやすい授業について考えた学習指導案が作成できる資質を獲得する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行う等、生徒理解と対話力の向上に努力する。どんな教師をめざし、どのような生徒と学級集団を育成するかを語れるように取り組む。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
自己分析フレームシート			10		
面接個票・エントリーシート			10		
教育課題論文(1.目指す教師像、2.育てる生徒像、3.つくる学級像)			30		
面接対策・面接回答ノート			30		
教職教養模擬テスト			20		
教科書					
教科書1	教員採用試験 2025 教職教養頻出問題短期完成 15日間				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	東京アカデミー編 教員採用試験対策 参考書Ⅰ 教職教養Ⅰ				
出版社名	七賢出版株式会社	著者名	東京アカデミー		
参考書名2	東京アカデミー編 教員採用試験対策 参考書Ⅱ 教職教養Ⅱ				

出版社名	七賢出版株式会社	著者名	東京アカデミー
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教務部 教職員課管理主事 大阪市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1. 教職教養演習Ⅱのシラバスと授業方針を理解する。受講カードに記入し学習計画の立案を行う。 受験自治体の情報収集と学習計画の立案。使用する教員採用試験対策問題集の購入について		
2	2. 受験自治体の求める教師像、教育振興基本計画を調査し把握する。自己分析 エントリーシートの作成 めざす教師像、育てる生徒像を考える。自己分析、自己 PR 点検		
3	3. 面接の基本を学ぶ。面接練習 基本的な動き、基本的な話し方 面接質問 100 について回答を考える。 面接質問の過去問に対する回答を理解し、練習をする。面接対策ノートの作成 5月 21 日 完成提出。		
4	4. 学習指導要領の総則を理解する。教科の目標を理解する。中央教育審議会の答申を理解する。 受験の教科の教科の目標を理解し、目指す教師像を定める。		
5	5. 教育基本法を理解する。講義と演習 教育基本法の 18 条を学ぶ。		
6	6. 教職員の法規を理解する。講義と演習 地方公務員法を学ぶ。		
7	7. 面接練習1⇒ 個人面接の基本練習1 面接の基本的な動きを確認する。 面接の質問と回答について 基本的な質問内容を理解する。		
8	8. 面接練習2 ⇒ 個人面接の基本練習 2 面接官を理解する。 面接官の視点を理解し、質問に対する話し方を体得する。		
9	9. 第1次選考対策模擬テスト1 大阪市などの過去問題を活用した直前テストを受ける 過去問題を解き、傾向と対策に生かす。		
10	10 第1次選考対策模擬テスト2 大阪市などの過去問題を活用した直前テストを受ける 過去問題を解き、傾向と対策に生かす。		
11	11. 面接練習3 と小テスト 個人面接の基本練習3 教育心理 小テスト 筆記試験合格後の 個人面接対策を行う。基本的な質問に対して、簡潔に答える練習を反復する。		
12	12. 面接練習4と小テスト 個人面接の基本練習4 教育法規 小テスト 面接で必ず質問される項目について、確実な回答の練習を行う。		
13	13. 面接練習5と小テスト 個人面接の基本練習5 教育法規 小テスト		

	最後の一言に、感謝の気持ちを込める。最後まで気持ちを緩めない。
14	14. 二次試験に向けての対策について 教科教養 筆記試験対策 実技試験対策 一次合格者への対応 模擬授業・場面指導の練習など 二次試験対策 場面指導・模擬授業などの面接対策
15	15. 二次試験の対策 教科教養筆記試験・実技試験の対策と練習 近年の実技試験課題への対応と練習 面接の重点対策 反復練習

科目名	教職教養演習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2026年度前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・教員採用試験に向けて自治体ごとの専門実技対策を行う。					
授業概要					
・教員採用試験に向けて実技対策(ピアノ・専門楽器・弾き歌い・アルトリコーダー・和楽器等)を行う。 ・面接練習、模擬授業、場面指導対策を行う。 ・筆記試験(専門科目)対策を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・目的意識を持って前向きに取り組む。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点			100		
教科書					
教科書1	中学生の音楽				
出版社名	教育芸術社		著者名		
教科書2	音楽のおくりもの				
出版社名	教育出版社		著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名			著者名		
参考書名2					
出版社名			著者名		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	[対面授業]第1回 受験自治体の実技試験内容の確認
2	第2回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技対策
3	第3回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技対策
4	第4回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技対策
5	第5回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・アルトリコーダー・専門楽器対策
6	第6回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・アルトリコーダー・専門楽器対策
7	第7回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・面接指導対策
8	第8回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・面接指導対策
9	第9回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・面接指導対策
10	第10回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・場面指導対策
11	第11回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・場面指導対策
12	第12回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・模擬授業対策
13	第13回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・模擬授業対策
14	第14回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・専門筆記試験対策
15	第15回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・専門筆記試験対策

科目名	情報メディアの活用	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2026年度前期	形態	講義		
教員名	中道 厚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
司書教諭として学校図書館に必要な情報メディア活用に関する実践的知識のほか、AI や各種コンテンツ、Web 情報源、NIE(教育に新聞を)、著作権法等の理解・活用を身につける事を目標とする。					
授業概要					
司書教諭として必要な、情報メディアの活用を巡る現状・課題等を明らかにする。このため、関係する政策的事項、歴史的経過、現代の学校教育の中でのメディアの位置づけ、具体的な活用等に係る事項をとりあげ、これらについての理解と問題意識を深める。学びの成果は、アクティブラーニングを通して共有し相互評価する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
2 単位の修得には、15 回の授業のほかに合計 60 時間(4 時間×15 回)の事前事後の学習が必要となります。30 時間の事前学習(予習)、30 時間の事後学習(復習)を目安に、各自が以下のような学習に取り組みましょう。事前事後学習シートは 1 回目の授業で配布します。					
予習					
・事前事後学習シートの事前欄の内容について、わからない言葉は意味を調べる等、内容を自分なりに理解してくる。					
・身の回りで行われている様々な学習活動に関心を持ち、関連する情報を、新聞記事やインターネットなどで収集し、その内容を理解する。					
復習					
・毎時間記入する出席レポートに、その日に学んだ内容の振り返りを記入する。					
・事前事後学習シートの事後欄は、講義後に指定された内容について、配布された資料を活用し理解を深めて記入する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回実施する出席レポート			50		
複数回実施する課題			40		
予習・復習のためのワークシート			10		
教科書					
教科書1	使用しません。毎回プリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	『情報メディアの活用 (探究 学校図書館学第 5 巻)』				
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	「探究 学校図書館学」編集委員会 (著)		
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
文部科学省 HP 学校図書館ガイドライン https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「情報メディアの活用」で、何をどのように学ぶかを理解する。		
2	情報活用能力と情報リテラシーについて理解する。		
3	近代以前のメディア、活字資料、視聴覚資料、放送教育、デジタルコンテンツの流れを理解する。		
4	コンピュータ活用の歴史について理解する。		
5	NIE(Newspaper in Education)について学ぶ。		
6	デジタルメディア情報源(ウェブサイト)、オンラインデータベース、電子書籍等について理解する。		
7	アプリケーション・ソフトウェア、教育用ソフトウェア、コンピュータ周辺機器等について理解する。		
8	インターネット情報源と情報検索について理解する。		
9	児童生徒の情報行動の実態と指導(情報モラル)について理解する。		
10	情報メディアの活用事例(小学校)について理解する。		
11	情報メディアの活用事例(中学校)について理解する。		
12	情報メディアの活用事例(高等学校)について理解する。		
13	特別な支援を要する児童生徒への情報メディアの活用事例について理解する。		
14	情報メディアを取り巻く連携の事例について理解する。		
15	「情報メディアの活用」で理解したことを活用して、自分がめざす学校種の学校図書館でできることを考える。		

科目名	教育学概論	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本学の教育目的(人材育成方針)にある「民主社会における指導的人材」としての教員を目指すために必要となる教育の基本的概念や理念について理解することを目的とする。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。 					
授業概要					
<p>教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>予習: 授業テーマやサブテーマについて下調べした上で、自分自身の考えをまとめておく(2時間)。 復習: ノートをしっかり整理する。とりわけ、3、5、8、12、14回目に配布されたまとめプリントについてわからない用語は調べておく(2時間)。 受講上の注意: 授業終了後ミニレポートを作成してもらう。その内容が平常点に加算される(提出しただけでは、点数にならないので注意すること)。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 授業態度(私語、遅刻、学生証忘れ)等			30		
授業中試験			70		
教科書					
教科書1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	教育学とは何か キーワード: 教育制度、教育方法、教育史、教育思想		
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード: 公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書		
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード: 国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書		
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード: 教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価		
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード: 新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価		
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード: 障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育		
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード: ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度		
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード: 障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育		
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード: 近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども		
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード: 子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども		
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード: 「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育		
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待 キーワード: 家族の多様化、児童虐待防止法、児童相談所対応件数、愛着形成		
13	学校文化の歴史と思想①—学校建築の歴史の変遷 キーワード: 学校文化の生成、擬洋風建築、兵舎モデル、オープンスクールの思想		
14	学校文化の歴史と思想②—運動場と金次郎像のある風景 キーワード: 体育と徳育、遠足運動会、二宮金次郎(尊徳)、臣民モデル		
15	授業のまとめと試験・今期のまとめ(30分) ・最終試験(60分)		